

# 資料編

## 資料編 目次

資料番号	資料名	ページ数
I	ドラキュラ退治演習の改定版資料	資料編 1
I-1	演習資料	資料編 2
I-2	危機管理課チームファクトシート	資料編 6
I-3	福祉課チームファクトシート	資料編 8
II	部署間越境・連携ワークショップマニュアル	資料編 10

# I ドラキユラ退治 演習の改定版資料

## I-1 演習資料



### 「越境」を体感しよう！

お手元に「茅葺町福祉避難所開設合戦 ファクトシート」をご用意ください。



## ワークショップのルール（設定）

- あなたは、兵庫県内の自治体「茅葺町」の職員です。
- 茅葺町で町制施行以来の災害が発生しました。
- 町内2箇所の指定避難所（A避難所、B避難所）は開設済みです
- 地域防災計画では「C福祉事業所」を福祉避難所として開設することになっていますが、発災3日目の現在、未開設です。
- 「できるだけ早く福祉避難所を開設せよ」と災害対策本部会議で本部長が指示を出しました。
- あなたはチーム内で手元の情報を整理し、いつまでに福祉避難所が開設できるかを検討・回答することになりました……。

## ワークショップのルール（進行）

- 各チームがブレイクアウトルームに入ります。
- 各チームで「**交渉役**」を1名、まず決めてください。
- 両チームの**交渉役のみ**、いつでも情報交換や検討ができます。
- 交渉したい時は、**交渉ルーム**に来てください。
- 交渉役以外のメンバーが交渉ルームに来る場合、ミュート・カメラオフにしてください。
- 各ルームに入っている研究員に、交渉開始を伝えてください。
- 検討時間は**約60分間**です。
- 終了後、福祉避難所開設計画を発表してください。
- 相手チームより早く開設できる計画を発表したチームが**勝ち**です。

※ゲーム内での「開設」とは、福祉避難所の準備を完了し、避難者を受入れた時点のことを言います。

## 福祉避難所開設に必要なもの

- いまは**月曜日早朝**です。昨日（日曜日）に避難所内トリアージを実施したところ、A避難所には介護が必要な高齢者が2名、B避難所には重度の身体障害者が1名おられることがわかりました。この**3名を福祉避難所に避難**させなければなりません。
- 町内の避難所はA避難所・B避難所のみです。また、福祉避難所となりうるのはC福祉事業所のみです。
- A・B避難所、C福祉事業所とも、建物の安全性は確保されています。

## 福祉避難所開設に必要なもの

- 福祉避難所を開設するためには、「電気」「水（非飲用）」「食料・飲料水」「寝具」「スタッフ」が必要です。
- 物資の輸送には「ワゴン車」が必要です。
- 要配慮者を避難所間で移動させるためには、専用の「介護車両」が必要です。
- 「介護車両」「ワゴン車」は、町役場の職員が運転しなければなりません。

## 福祉避難所開設に必要なもの

- スタッフのローテーションは考えなくても良いです。
- 1週間開設するのに必要な計画を提示してください。
- 以下の「情報」に掲載されていない資源は使えません。たとえば「町役場のOB職員に手伝ってもらおう」といった工夫はこのワークショップでは禁止です。

福祉避難所開設は… 曜日								
	月曜日 3日目	火曜日 4日目	水曜日 5日目	木曜日 6日目	金曜日 7日目	土曜日 8日目	日曜日 9日目	月曜日 10日目
電気								
水 (非飲用)								
食料・ 飲料水								
寝具								
スタッフ								
ワゴン車								
介護車両								

## I-2 危機管理課チームファクトシート

### 茅葺町福祉避難所開設合戦 ファクトシート（危機管理課チーム）

#### シナリオ：

兵庫県茅葺町は、京都府と鳥取県に隣接し瀬戸内海に面したそれなりに小さな自治体です。特産品はよもぎマシュマロ、町内の林には野生のコアラがいることでも有名です。

そんな茅葺町で町制施行以来の災害が発生しました。初動期は上へ下への大騒ぎでしたが、有能な町職員であるあなたは、町民の命と健康を守るために落ち着いて対応しています。

町内2箇所の指定避難所（A 避難所、B 避難所）は開設済みです。さらに、地域防災計画では「C 福祉事業所」を福祉避難所として開設することになっていましたが、発災3日目の現在、まだ開設されていません。「できるだけ早く福祉避難所を開設せよ」と災害対策本部会議で本部長が指示を出しました。あなたはチーム内で手元の情報を整理し、いつまでに福祉避難所が開設できるかを検討・回答することになりました……。

#### 達成目標

- 情報を共有・検討して、**何曜日に福祉避難所を開設できるか**を回答してください。

#### 条件：

- いまは**月曜日早朝**です。
- 昨日（日曜日）に避難所内トリアージを実施したところ、A 避難所には介護が必要な高齢者が2名、B 避難所には重度の身体障害者が1名おられることがわかりました。この3名を福祉避難所に避難させなければなりません。
- 町内の避難所は**A 避難所・B 避難所**のみです。また、福祉避難所となりうるのは**C 福祉事業所**のみです。なお、A・B 避難所、C 福祉事業所とも、建物の安全性は確保されています。
- 福祉避難所を開設するためには、「電気」「水（非飲用）」「食料・飲料水」「寝具」「スタッフ」が必要です。
- 物資の輸送には「**ワゴン車**」（写真2）が必要です。
- 福祉避難所に収容する要配慮者を避難所間で移動させるためには、専用の「**介護車両**」が必要です（写真1）。
- 「**介護車両**」「**ワゴン車**」は、町役場の職員が運転しなければなりません。
- 以下の「情報」に掲載されていない資源は使えません。たとえば「町役場のOB職員に手伝ってもらおう」といった工夫はこのワークショップでは禁止です。



情報：

- あなたは町役場の危機管理課の職員です。
- ワゴン車は危機管理課で所有しており、月曜日、火曜日に1台使えます。
- 介護車両は福祉課が持っています。
- C福祉事業所の地区は、水曜日に電気が復旧する見込みです。
- 町内の断水が復旧するのは2週間後の見込みです。C福祉事業所への応急給水は水曜日に自衛隊（2日分）、金曜日に水道部局（1日分）のみです。
- C福祉事業所には福祉避難所用の食料・飲料水の備蓄が1週間分あります。
- 寝具は、兵庫県の物資拠点にありますが、取りに行かなければなりません。
- 寝具は、ワゴン車を使用すれば1人で運ぶことができます。
- 福祉避難所の運営（事務作業）に1ヵ所あたり1人必要です。加えて、介助が必要な者3人につき1人の支援者が必要です。
- 自由に動ける危機管理課職員（運転、福祉避難所運営、介助が可能）は火曜日～金曜日にそれぞれ1人のみです。



写真1 介護車両



写真2 ワゴン車

## I-3 福祉課チームファクトシート

### 茅葺町福祉避難所開設合戦 ファクトシート（福祉課チーム）

#### シナリオ：

兵庫県茅葺町は、京都府と鳥取県に隣接し瀬戸内海に面したそれなりに小さな自治体です。特産品はよもぎマシュマロ、町内の林には野生のコアラがいることでも有名です。

そんな茅葺町で町制施行以来の災害が発生しました。初動期は上へ下への大騒ぎでしたが、有能な町職員であるあなたは、町民の命と健康を守るために落ち着いて対応しています。

町内2箇所の指定避難所（A 避難所、B 避難所）は開設済みです。さらに、地域防災計画では「C 福祉事業所」を福祉避難所として開設することになっていましたが、発災3日目の現在、まだ開設されていません。「できるだけ早く福祉避難所を開設せよ」と災害対策本部会議で本部長が指示を出しました。あなたはチーム内で手元の情報を整理し、いつまでに福祉避難所が開設できるかを検討・回答することになりました……。

#### 達成目標

- 情報を共有・検討して、**何曜日に福祉避難所を開設できるか**を回答してください。

#### 条件：

- いまは**月曜日早朝**です。
- 昨日（日曜日）に避難所内トリアージを実施したところ、A 避難所には介護が必要な高齢者が2名、B 避難所には重度の身体障害者が1名おられることがわかりました。この3名を福祉避難所に避難させなければなりません。
- 町内の避難所は**A 避難所・B 避難所**のみです。また、福祉避難所となりうるのは**C 福祉事業所**のみです。なお、A・B 避難所、C 福祉事業所とも、建物の安全性は確保されています。
- 福祉避難所を開設するためには、「電気」「水（非飲用）」「食料・飲料水」「寝具」「スタッフ」が必要です。
- 物資の輸送には「**ワゴン車**」（写真2）が必要です。
- 福祉避難所に収容する要配慮者を避難所間で移動させるためには、専用の「**介護車両**」が必要です（写真1）。
- 「**介護車両**」「**ワゴン車**」は、町役場の職員が運転しなければなりません。
- 以下の「情報」に掲載されていない資源は使えません。たとえば「町役場のOB職員に手伝ってもらおう」といった工夫はこのワークショップでは禁止です。

**情報：**

- あなたは町役場の福祉課の職員です。
- 介護車両は福祉課で所有しており、火曜日、水曜日、木曜日に使えます。
- ワゴン車は危機管理課が持っています。
- C福祉事業所には非常用電源がありますが、月曜と火曜しか燃料が持ちません。
- C福祉事業所では井戸水（非飲用）が使えます。
- 寝具は、兵庫県の物資拠点にあります。取りに行かなければなりません。
- 兵庫県の物資拠点までの道のりは渋滞しており、車で取りに行くのに丸1日かかります。
- 福祉避難所の運営（事務作業）に1ヵ所あたり1人必要です。加えて、介助が必要な者3人につき1人の支援者が必要です。
- 福祉専門職のボランティア2人（運転、福祉避難所運営、介助が可能）が木曜日から活動できます。
- 自由に動ける福祉課職員（運転、福祉避難所運営、介助が可能）は月曜日～木曜日にそれぞれ1人のみです。



写真1 介護車両

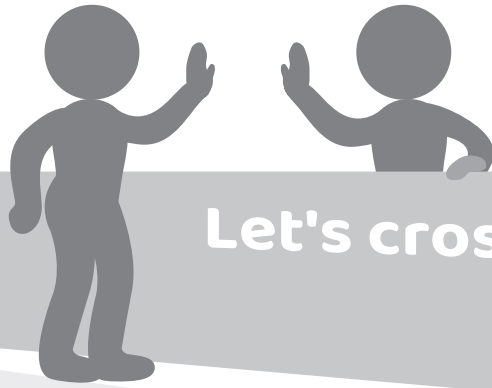


写真2 ワゴン車

# Ⅱ 部署間越境・連携 ワークショップ マニュアル



災害対応のために  
越境しよう！



Let's cross the border!

# 部署間越境・連携 ワークショップ マニュアル

阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター 研究部

はじめに

人と防災未来センターでは、2018年度～2022年度の5年間、全研究員が中核的研究プロジェクト「巨大災害の縮災実現に向けた体制の創出手法」に取り組み、その成果として、自治体の災害対応には「普遍化」と「越境」が基盤として重要な要素であることを明らかにしました（※DRI 調査研究レポート Vol.52 2022.2月参照）。

このうち、「越境」は、部署間あるいは組織間での円滑な連携を進めるうえで重要な要素であるにもかかわらず、多くの自治体が実施している訓練には、この要素がほとんど取り入れられていないと考えています。

このため、当センターでは、自治体における部署間の境界を確認するとともに、「越境」を体験し、災害時の部署間連携を円滑に実施するためには平常時から何をすべきかを理解することができる「部署間越境・連携ワークショップ」を新たに開発しました。

このワークショップを実施することにより、「越境」の必要性を理解するとともに、平常時から部署間での越境・連携した取り組みを積み重ねることで、災害時の的確な対応が可能となり、被害軽減につながると考えています。

本ワークショップマニュアルが多くの自治体でご活用いただけることを期待しています。

人と防災未来センター研究部

# 部署間越境・連携ワークショップ マニュアル

## 目次

### はじめに

#### A. ワークショップの概要

1. ワークショップの意義
2. ワークショップの効果
3. ワークショップの対象者
4. 体験者の声
5. 監修者からのコメント

#### B. 企画・運営の手順書

1. ワークショップを企画する
2. 事前準備を進める
3. 直前準備を進める
4. ワークショップ当日の運営
5. ワークショップの成果をふりかえる

#### C. 進行台本

1. ワークショップの説明
2. 境界の確認ワーク
3. 越境の確認ワーク
4. ふりかえりワーク

#### D. ワークショップで使用する資料

# 部署間越境・連携ワークショップ

## A. ワークショップの概要

### 1. 意義及び効果

本ワークショップは、「越境」という行為に着目して設計しています。

「越境」とは、複数の組織または部署が連携を行う共通の目的を持たない状態で、ある組織または部署の者がその他の組織または部署に対して能動的に「連携」に巻き込む行為のことを言います。(図1)

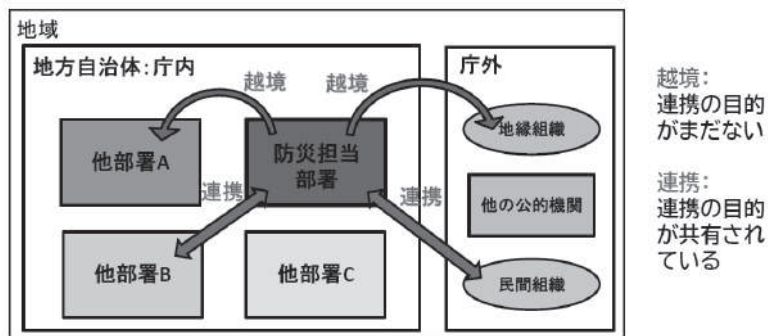


図1 越境のイメージ図

行政は、平常時は縦割り構造で機能を分業することにより、効率的に業務を推進していますが、ひとたび災害が発生すると、限られた時間と資源の中で、普段の業務に加えて災害対応という膨大な業務を新たに行う必要に迫られ、部署間はもとより他の自治体や外部組織と「連携」しながら対応することが求められます。しかし、平常時から「越境」ができていない自治体では、「連携」できる体制への切り替えがうまくできないために、増大した業務に対応することができず、被害が拡大してしまう恐れが生じます。(図2)

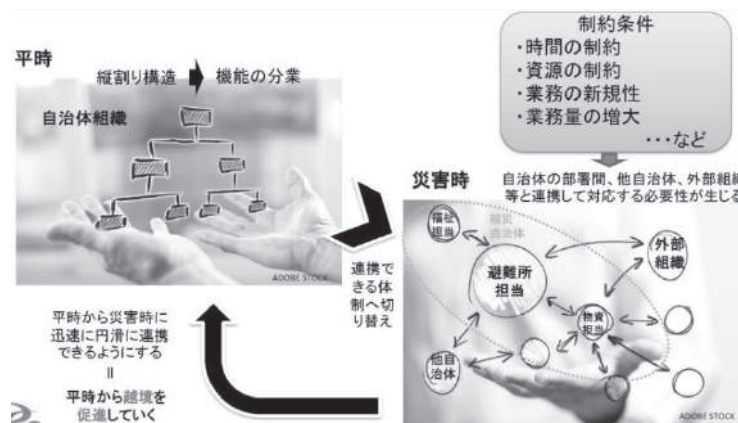


図2 平時と災害時のイメージ図



本ワークショップを実施することによって、災害対策本部内の役割分担を確認するとともに、災害時における「連携」の重要性を理解し、円滑な災害時連携の前提となる「越境」を平常時から推進する方策を意識できるようになることが期待できます。

## 2. 構成

ワークショップは、「境界の確認」「越境の体験」「課題の抽出」の3部で構成しています。(図3)

まず、「境界の確認」では、地域防災計画等で役割分担が規定されていても実際の災害では規定の業務所掌には含まれない事象が発生したり、事前の役割分担が曖昧な場合に、役割の押し付け合いや対応の抜け漏れが発生したりするといった課題に対して、各部署の役割を再確認し、認識の齟齬を明らかにします。

次に、「越境の体験」では、部局を越えた対応を模擬的に行ってみることで、越境の必要性やイメージを体感します。

また、「課題の抽出」では、「境界の確認」と「越境の体験」で得られた知見をもとに越境を促進するための課題を具体化します。

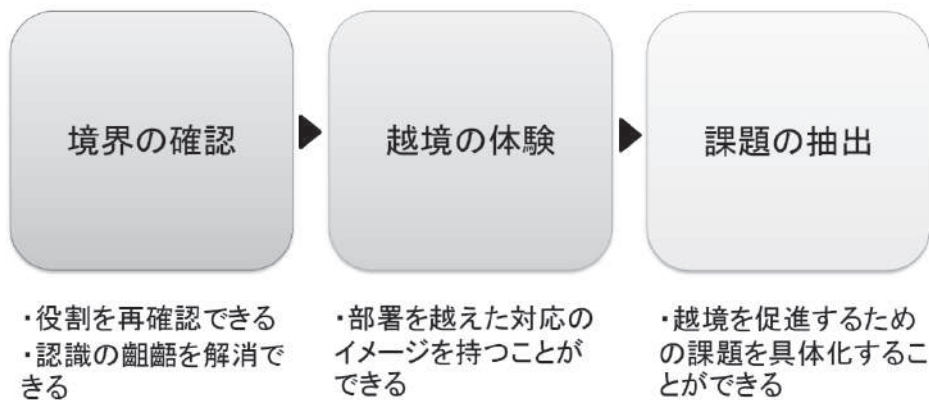


図3 ワークショップの流れ

※本ワークショップは、状況予測型訓練のように災害をイメージし、熟考しながら実施するものです。多様な部署の職員と議論しながら、よりよい対応について考えることができるようになっています。

### 3. ワークショップの対象者

可能な限り多様な部署から参加者を集めてください。すべての部署から参加者を集めることが望ましいですが、自治体の規模によっては部署を限定して実施することも可能です。

また、本ワークショップは、災害対策本部各対策部の責任者から新人まで幅広く参加が可能です。

さらに、ワークショップの構成や内容を工夫することにより、小規模な自治体でも政令市や県などの大規模な自治体でも実施が可能です。

### 4. 体験者の声

＜本ワークショップを佐用町で実施した際の体験者の声＞

- 継続的に実施することで今後に生かせるのではないかと感じた。
- 担当部署だけでは解決できない内容であっても越境でのチーム体制作りがよかった。
- プロジェクトチーム設置で部署をまたがる事案の検討を行うので、部署間連携の重要性を理解する目的は達成されたと思う。
- 今まで経験したことのない形での訓練で大変参考になった。

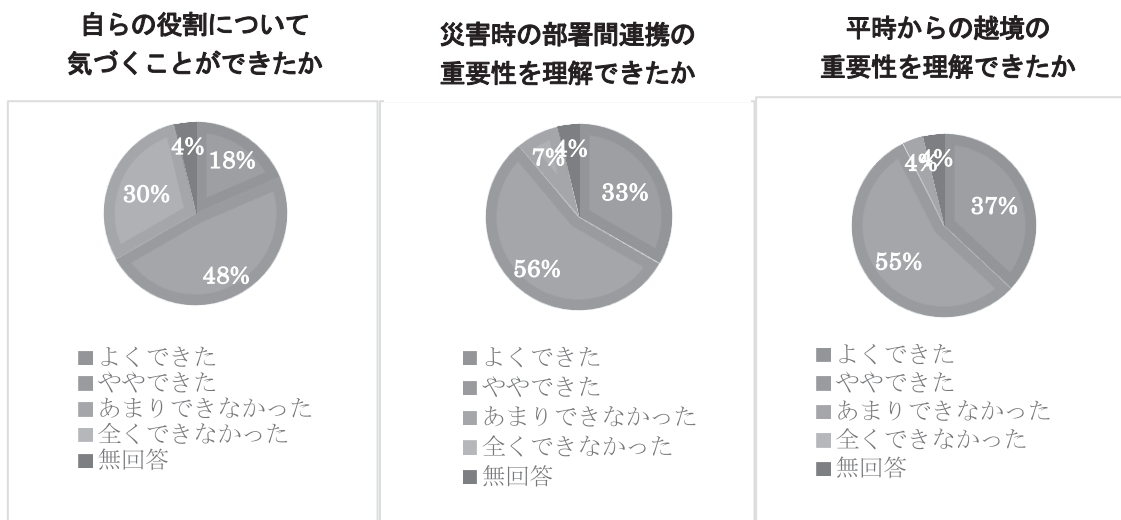


図4 体験者の評価（回答数 26 名）

体験者のうち、「自らの役割について気づくことができた」と答えたのは 66%、「災害時の部署間連携の重要性を理解できた」と答えたのは 89%、「平時からの越境の重要性が理解できた」と答えたのは 92%以上でした。

## 5. 監修者からのコメント

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 客員研究員

元 芦屋市市長室室長 前 熊本県益城町危機管理監 今石 佳太

大学で最近実施した全国自治体防災部局へのアンケート調査では、「大規模災害対応への経験がなく不安である」、「地域防災計画や受援計画等の各種の災害対策計画は策定しているものの、いざという時に庁内組織が機能するのか不安である」という回答が数多く寄せられている。

また、筆者が支援を行なった多くの自治体での災害検証でも、組織内部の連携が機能せずに、対外機関との連携や支援の受入で支障が生じたとの報告がなされている。

本来、行政組織においては辞令交付に基づく職務以外にも、全ての職員が災害時の役割分担を担っているはずである。以前より、組織内部の協力が得られないという声は数多く聞かれるところであるが、それらを改善するための各種の研修や訓練等のプログラムが必ずしも充実していたとは言い難い側面も散見される。

熊本地震最大の被災地である益城町においても、首長以下職員が一丸となり最大限の災害対応を行ったところではあるが、結果として初動時には多くの課題を残すこととなった。

その中で、特筆すべきは課題となった幾つかの対応策について、防災計画に記載の役割分担では機能しないとの判断から、急遽、組織内部の複数の関連部局を集めたプロジェクトチームを編成し、その対応を行った事である。それにより、実施すべき対応策への課題が共有される事となり結果として早期に対応が成し遂げられたところである。

地震後の検証から得られたこれらの事実を、次の災害に生かすための訓練手法の開発を行い、従前より用いられている「状況付与型訓練」と「状況予測型訓練」の利点を掛け合わせた「ハイブリッド型」の図上訓練を開発し、もたらされた対応すべき災害事案が必ずしも一つの部署だけで成し得るものではないという気づきをもたらす訓練手法としては、一定の成果を見たところである。

今回、人と防災未来センターの中核的研究として開発された「部署間越境・連携ワークショップ」では、先行研究されたこれらの訓練手法を更に踏み込む形で、「越境」という言葉をキーワードとして組織内部における連携の重要性を理解させるために開発された訓練手法であると考えられる。

災害は毎回状況が異なり、過去に類似の災害対応を行ったから次回もその経験が生きては限らないことを念頭に、本プログラムを全国の自治体が活用され、より多くの組織で来るべき災害に備えての事前学習の一助となることを切に願うばかりである。



# 部署間越境・連携ワークショップ

## B. 企画・運営の手順書

この企画・運営の手順書は、本ワークショップを自治体組織内で企画・準備・実施する運営チーム（危機管理・防災部署の訓練担当係など）がすべきことを順に説明しています。

まず運営チーム内でこの手順書を読み合わせ、訓練対象者、学習目標、準備作業、準備期間、資機材などについて検討してください。

なお、ここで言う「推奨モデル」とは、佐用町で実施したワークショップを踏まえて、人と防災未来センターが推奨するワークショップのことで、以下のようなプログラムとなっています。

部署間越境・連携ワークショップ  
タイムライン(参考)

D-1

進行時間	次第	所要時間	内容	配布資料
13:00~13:05	開始	5分	・司会による開始の言葉 ・本部長によるあいさつ	全員：「D-3 実施要領」「D-4 参加者名簿」
13:05~13:20	ワークショップの説明 状況設定の説明	15分	・司会によるワークショップの説明 ・司会による災害の状況設定の説明	
13:20~13:40	境界の確認 所管する事案の選択	20分	・司会による進め方の説明 ・各対策部で「状況付与表（各部提出用）」を作成させ、提出させる	参加者：「D-5 状況付与表」 各対策部：「D-6 状況付与表（各部提出用）」
13:40~14:05	所管する事案の選択 フィードバック	25分	・運営チームは、各対策部より提出された「状況付与表（各部提出用）」を集約する ・講師者は、「状況付与表（参考）」とつぎ合わせ、業務の「重複」や「抜け」を確認し、講評する。	本部長・講師者：「D-7 状況付与表（参考）」
14:05~14:15	第Y回災害対策本部会議 （目標・対応方針・PT設置指示）	10分	・本部長、各対策部長が出席 ・司会による進め方の説明 ・本部長によるPT設置の指示	各対策部長：「D-8 第Y回災害対策本部会議 指示事項」 本部長：「D-9 第Y回災害対策本部会議 本部長指示事項」
14:15~15:15	PTによる対策等の検討	60分	・司会による進め方の説明 ・参加者は、4つのPTに分かれて対策等の検討を実施	各PT：「D-10 各PT対応事案一覧表」 「D-11 各PT対応事案一覧表（記載例）」
15:15~15:25	休憩	10分		
15:25~16:05	第Z回災害対策本部会議	45分	・本部長、各PTの主・副責任者が出席 ・司会による進め方の説明 ・各PT主責任者からの報告 ・本部長・講師者からの質疑応答	本部長・講師者：「D-12 各PTが検討する課題（参考）」 「D-13 各PT対応事案一覧表（参考）」
16:05~16:50	ふりかえりと今後の対策の検討	45分	・司会による進め方の説明 ・各PTごとにふりかえり ・各PTごとのふりかえり結果の発表	
16:50~17:00	講評・終了	10分	・講師者、本部長による講評	
17:00~17:10	アンケート	10分	・参加者に「事後アンケート」に協力していただく	参加者：「D-14 事後アンケートへのご協力をお願い」



## コンテンツ

### 1. ワークショップを企画する

- 1-1) ワークショップの目標を定める ..... B-3
- 1-2) ワークショップの参加者（訓練対象者）を定める ..... B-3
- 1-3) ワークショップの構成を決める ..... B-4
- 1-4) ワークショップの内容を決める ..... B-4
- 1-5) ワークショップの開催日時と会場を決める ..... B-5

### 2. 事前準備を進める

- 2-1) 運営チーム内の役割を決める ..... B-6
- 2-2) ワークショップに必要な資料を修正する ..... B-7
- 2-3) ワークショップ参加者に事前案内を行い、事前学習を促す ..... B-8

### 3. 直前準備を進める

- 3-1) 資料の印刷 ..... B-9
- 3-2) 機材や文具の準備 ..... B-9
- 3-3) 会場設営 ..... B-9
- 3-4) 参加者への直前案内 ..... B-11

### 4. ワークショップ当日の運営

- 4-1) 当日打ち合わせ ..... B-11
- 4-2) 受付 ..... B-11
- 4-3) 記録 ..... B-11
- 4-4) 開始 ..... B-11
- 4-5) 片付け ..... B-11

### 5. ワークショップの成果をふりかえる

- 5-1) 事後アンケートの回収と分析 ..... B-12
- 5-2) 運営チーム内でのふりかえりミーティング ..... B-12
- 5-3) 参加者と組織へのフィードバック ..... B-12



# 1. ワークショップを企画する

## 1-1) ワークショップの目標を定める

- ワークショップの目標を運営チームで検討して定めます。
- 目標は参加者の職位、自組織の強みと課題、組織風土、近年の災害対応経験などを加味して検討します。
- 目標は運営チーム全員が議論のうえ共有しておきます。事前説明会や当日のオリエンテーションで参加者にくりかえし伝え、運営チームのふりかえりミーティングで達成度合いを確認します。

### 目標の例

目的	目標	レベル
境界の確認	参加者が、災害対策本部における各部の役割分担と自身の役割を理解できる	新任者／ 未経験者    管理職／ 災害対応経験者
越境の体験	参加者が、災害対策本部の各部単独では円滑な実施が困難な業務が生じうることを理解できる	
越境の体験	参加者が、円滑な災害対応のための部署間の越境を実感する。	
課題の抽出	参加者が、災害時連携の前提となる越境を平常時からどのように進めてゆくかを意識できる。	

## 1-2) ワークショップの参加者（訓練対象者）を定める

- ワークショップに参加する職員（訓練対象者）を定めます。

### 参加者の例

- ✓ 小規模自治体…部課長級職員全員
- ✓ 中規模自治体…新任職員全員、部長級職員全員
- ✓ 大規模自治体…部課長級職員を対象として、複数回に分けて実施

- 1回あたりの適正参加人数は約20～30人です。
- 本ワークショップは部署間の越境・連携能力の向上を目的としているので、必ず複数の部署の職員で実施してください。



### 1-3) ワークショップの構成を決める

- 本ワークショップは「境界の確認ワーク」「越境の体験ワーク」「ふりかえりワーク」の3部から構成されます。
- 「境界の確認ワーク」「越境の体験ワーク」「ふりかえりワーク」すべてを実施することが理想ですが、部分的な構成も可能です。
- 目標と参加者に合わせて、ワークショップの構成を決定します。

#### ワークショップ構成の例

参加者（例）	ワークの構成	所要時間
管理職 災害対応経験者	【境界の確認ワーク】 + 【越境の体験ワーク】 + 【ふりかえりワーク】	約4時間
初任者	【境界の確認ワーク】 + 【ふりかえりワーク】	約2時間
災害対応経験者と 未経験者の混成	【越境の体験ワーク】 + 【ふりかえりワーク】	約3時間

### 1-4) ワークショップの内容を決める

- 各自治体の規模・特性・課題などをふまえて、各ワークの内容を企画してください。

#### 各ワークの企画例

- ✓ 「境界の確認ワーク」の内容
  - 状況付与表を使ったワーク（推奨モデル「C 進行台本」参照）
  - 状況付与型訓練のなかに取り入れたワーク
- ✓ 「越境の体験ワーク」の内容
  - プロジェクトチームでの対応検討ワーク（推奨モデル）
  - プロジェクトチーム自体の設定を検討するワーク
  - プロジェクトチーム以外の編成で部署横断的な対応を検討するワーク
- ✓ 「ふりかえりワーク」の内容
  - ワークショップを通して得た部署間連携に関する課題の検討（推奨モデル）
  - 越境のために平常時からできる対策の検討（推奨モデル）



## 1-5) ワークショップの開催日時と会場を決める

- 所要時間、年間予定などを元に、ワークショップ本番の開催日時を決めます。
- 参加人数と会場設営図（3-3 参照）を参考に会場を決め、予約します。

### 会場を選ぶ際に考慮すること

- ✓ 広さ…複数のテーブルを置いたうえで、参加者が移動できる
- ✓ 近さ…参加する職員が無理なく集合できる
- ✓ 電源とスクリーン…パワーポイント資料を投影できる



## 2. 事前準備を進める

### 2-1) 運営チーム内の役割を決める

- 運営チーム内で、事前準備と訓練当日の役割分担を決めます。

#### 事前準備の役割

役割	担当業務
全体統括	本訓練の企画・準備・実施・事後作業全体を管理します。
資料の編集	当日使用する資料を自組織に合わせて編集します。 (2-2 参照)
資機材の準備	当日使用する資機材を準備します。また、会場の確保を担います。(2-3 参照)
外部講師等の人選・依頼	講師や司会者を外部に依頼する場合、その人選と依頼を行います。
参加者への案内・対応	ワークショップに参加する職員への案内、事前説明会、事前訓練、アンケート配布・集計、フィードバック等を行います。

#### 訓練当日の役割

役割	担当業務
全体統括	ワークショップ当日の運営全体を統括します。
司会 (本部長)	「C 進行台本」に従って、参加者に対しワークショップの目標や作業内容をわかりやすく説明し、全体を進行させます。 「C 進行台本」に従って、参加者に対して指示を出し、また報告を受けます。 ※市町村長やそれに準ずる立場の方が担当することが望ましい。 ※企画に応じて、本部長をプレイヤーにする場合もある。
講評	ワークショップの様子を観察し、最後に訓練参加者に対して講評（評価・助言）を行います。また、運営チームに対してワークショップの運営についてコメントします。 ※災害対応経験のある自治体職員・OB、防災研究者等に依頼することが望ましい。
資機材管理	当日使用する資機材の搬入・配布・搬出・管理を担当します。
受付	訓練参加者の出欠管理、アンケートの回収などを担当します。
記録	写真撮影、録画、成果物の保存などを担当します。

- ワークショップ全体の進行は司会が担当しますが、ワークショップの内容を把握した運営チーム職員を各テーブルにファシリテーターとして配置し、進行を補助することができればなお良いでしょう。

## 2-2) ワークショップに必要な資料を作成する

- 推奨モデルを実施する場合は、運営チーム内で「C 進行台本」を読み合わせ、ワークショップの流れを理解し、資料を修正してください。
- 推奨モデル以外の企画を実施する場合は、内容に合わせた資料を作成してください。
- ワークショップ参加者が戸惑いそうなところをあらかじめ見積もっておきます。
- 準備する資機材について、新たに調達すべきもの、代用可能なもの等を整理します。
- 参加者、目標、ワークショップの構成、自治体規模等を加味して資料を適宜加筆修正します。

### 推奨モデルの資料の修正箇所

- ✓ 「D-1 オリエンテーション資料」（加筆修正する箇所は黄色で表示）
  - スライド1：実施する年度、自治体名を記入する。
  - スライド6～16：災害の設定について「水害編」「地震編」の2パターン準備しているので、どちらかを選ぶ。  
：災害発生日時や被害の規模、被災状況図などを編集する。
- ✓ 「D-5 状況付与表」  
「D-6 状況付与表（各部提出用）」  
「D-7 状況付与表（参考）」
  - 「対策部」について、実施する自治体に合わせて編集する。
- ✓ 「D-8 第Y回災害対策本部会議指示事項（配付用）」  
「D-9 第Y回災害対策本部会議本部長指示事項（読み原稿）」  
「D-10 各プロジェクトチーム対応事案一覧表」  
「D-11 各プロジェクトチーム対応事案一覧表（記載例）」  
「D-12 各プロジェクトチームが検討する課題（参考）」  
「D-13 各プロジェクトチーム対応事案一覧表（参考）」
  - プロジェクトチームの想定について、実施する自治体に合わせて編集する。

## 2-3) 参加者に事前説明会を行い、事前学習を促す

- 参加者に「D-3 実施要領」を配布し、開催日時・会場を伝えます。また、「A. ワークショップの概要資料」も配布してワークショップの目的、流れ、学習目標をくりかえし明示します。
- ワークショップの効果を高めるため、可能であれば参加予定者に対して事前説明会を開催します。
- その際、事前学習として簡単なクイズや予習課題を提示し、参加者の基礎知識を底上げします。自組織の地域防災計画を再確認してもらうことも事前学習になります。
- 過去の災害対応の報告書・検証資料はすぐれた事前学習教材です。

- ✓ 佐用町「台風第9号災害検証報告書」
- ✓ 南三陸町・東北大学災害科学国際研究所「南三陸町東日本大震災職員初動対応等検証報告書」
- ✓ 常総市「平成27年常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書 ―わがこととして災害に備えるために―」
- ✓ 茨城県「平成27年9月関東・東北豪雨災害対応に係る検証一覧」
- ✓ 益城町「平成28年熊本地震 益城町による対応の検証報告書」
- ✓ 広島県「平成30年7月豪雨災害における初動・応急対応に関する検証結果」
- ✓ 倉敷市保健所「平成30年7月豪雨災害 保健活動報告書」
- ✓ 君津市「令和元年9・10月の風水害に関する報告書」
- ✓ 総務省消防庁編「市町村長による危機管理の要諦 事例集 (H29～R1)」

## 3. 直前準備を進める

### 3-1) 資料の印刷

- 必要な資料のリストを作成し印刷してください。

### 3-2) 機材や文具の準備

- 必要な資器材のリストを作成し準備してください。

### 3-3) 会場設営案

- 企画した内容に応じて適切な会場レイアウトを検討してください。
- 推奨モデルで実施する場合は、次項のレイアウト例を参考にしてください。



会場設営の例（2023年・兵庫県佐用町）

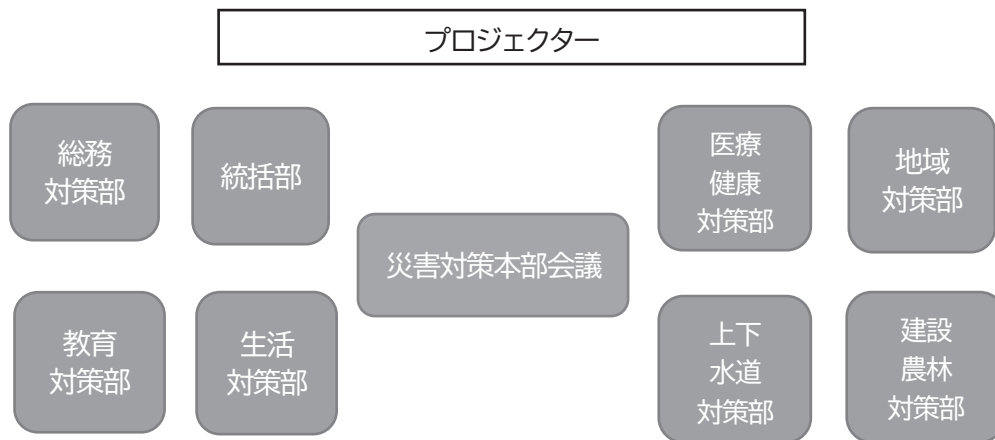
こちらは、佐用町のワークショップで使用した実際の佐用町災害対策本部スペースです。既存のスペースの形（本部会議スペースが部屋の隅にある）をあまり変えずワークショップを行いました。本部会議に参加していない各対策部員から、本部会議スペースから離れているために聞こえづらく、議論の方向性がわからなかったといった声がありました。

### 推奨モデルの会場設営案

#### ✓ 例)「境界の確認ワーク」時

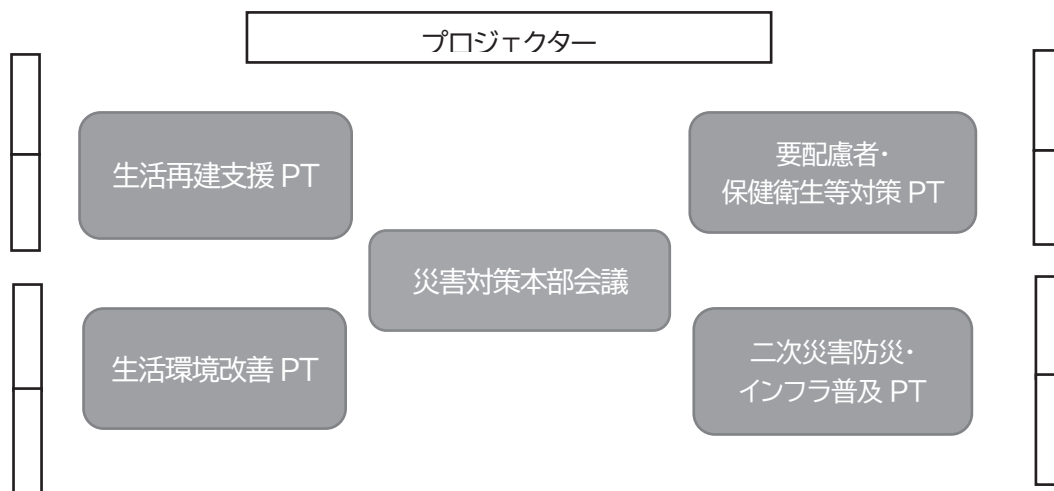
会場は、各対策部スペースを確保してください。続けて、越境の体験ワークを実施する場合は、災害対策本部会議スペースも確保してください。

可能であれば、災害対策本部会議スペースを中央にしてください。そうすることで、本部会議での議論を各対策部員も聞き取りやすく、議論の方向性が把握できます。



#### ✓ 例)「越境の体験ワーク」時

会場は、災害対策本部会議スペースと PT（プロジェクトチーム）スペースを確保してください。各 PT には、ホワイトボード2枚、模造紙1枚、付箋、ペンを配置します。



### 3-4) 参加者への直前案内

- 参加者に場所・時間をリマインドします。
- ワークショップの目的と学習目標を明示し、事前学習を促します。
- 事前アンケートを配布し、ワークショップ開始前の提出を依頼します。
  - Google Form 等の Web 調査ツールを用いると、自由記述の打ち込みなどが省力化できます。

## 4. ワークショップ当日の運営

### 4-1) 当日打ち合わせ

- 運営チーム内で、ワークショップの流れ、役割分担、記録方法、直近の変更点などを確認します。
- 講評者など外部からスタッフが来ている場合、参加者の特徴と今回のワークショップの目標も合わせて確認しておきます。

### 4-2) 記録

- 録画：会場全体の様子や、特定の班の様子をビデオカメラで録画しておきます。
- 写真：参加者の様子や、会場の資機材設営の状況がわかるように写真を撮影します。また、ホワイトボードや模造紙に書き込む場合、それらの成果物の写真を残しておきます。

### 4-3) 開始

- 本部長や全体統括の挨拶後、司会に進行をゆだねてワークショップを開始します。

### 4-4) 片付け

- 事後アンケートを回収します。
- 会場と資機材を片付けます。

## 5. ワークショップの成果をふりかえる

### 5-1) 事後アンケートの回収と分析

- 会場で回収した事後アンケートを集計します。
- 平均値の単純集計のほか、必要であれば、役職や災害対応経験の有無等でクロス集計を行い、全体的な傾向を調べます。
- 自由記述は一覧で読めるよう集約します。

### 5-2) 運営チーム内でのふりかえりミーティング

- 事後アンケートや、講評者のコメントを参考に、下記のこと等について運営チーム内で検討します。
  - 目標は達成したか
  - このワークショップにより気づいた組織課題をどのように解決してゆくか
  - ワークショップの手順やファシリテーションは適切だったか
  - 次回ワークショップや他の訓練に向けて改善すべきことは何か
  - 組織や職員個々人の「越境」能力向上のためにできることは何か
  - このワークショップが組織の課題や風土にマッチするか

### 5-3) 参加者と組織へのフィードバック

- 事後アンケートの分析結果、運営チーム内でのふりかえりミーティングの結果をとりまとめ、参加者および全庁に共有（フィードバック）します。
- フィードバックの目的は、参加の意義を参加者に感じてもらうこと、個人・部署・組織の長所や課題を再確認してもらうこと、越境・連携の重要性を組織に意識付けすることです。
- また、改善意見や、越境・連携を進めるための好事例等があれば合わせて紹介します。

## 部署間越境・連携ワークショップ

### C. 進行台本

この進行台本には、推奨モデル「部署間越境・連携ワークショップ（水害編）」を記載しています。推奨モデルとは、佐用町で実施したワークショップを踏まえて、人と防災未来センターが推奨するワークショップで、以下のようなプログラムとなっています。

部署間越境・連携ワークショップ  
タイムライン(参考)

D-1

進行時間	次第	所要時間	内容	配布資料	
13:00~13:05	開始	5分	・司会による開始の言葉 ・本部長によるあいさつ	全員：「D-3 実施要領」「D-4 参加者名簿」	
13:05~13:20	ワークショップの説明 状況設定の説明	15分	・司会によるワークショップの説明 ・司会による災害の状況設定の説明		
13:20~13:40	境界の 確認 ワーク シーク	所管する事案の選択	20分	・司会による進め方の説明 ・各対策部で「状況付与表（各部提出用）」を作成させ、提出させる	参加者：「D-5 状況付与表」 各対策部：「D-6 状況付与表（各部提出用）」
13:40~14:05		所管する事案の選択 フィードバック	25分	・運営チームは、各対策部より提出された「状況付与表（各部提出用）」を集約する ・講師者は、「状況付与表（参考）」とつぎ合わせ、業務の「重複」や「抜け」を確認し、講評する。	本部長・講師者：「D-7 状況付与表（参考）」
14:05~14:15	越境の 体 験 ワーク シーク	第Y回災害対策本部会議 （目標・対応方針・PT設置指示）	10分	・本部長、各対策部長が出席 ・司会による進め方の説明 ・本部長によるPT設置の指示	各対策部長：「D-8 第Y回災害対策本部会議 指示事項」 本部長：「D-9 第Y回災害対策本部会議 本部長指示事項」
14:15~15:15		PTによる対策等の検討	60分	・司会による進め方の説明 ・参加者は、4つのPTに分かれて対策等の検討を実施	各PT：「D-10 各PT対応事案一覧表」 「D-11 各PT対応事案一覧表（記載例）」
15:15~15:25		休憩	10分		
15:25~16:05	第Z回災害対策本部会議	45分	・本部長、各PTの主・副責任者が出席 ・司会による進め方の説明 ・各PT主責任者からの報告 ・本部長・講師者からの質疑応答	本部長・講師者：「D-12 各PTが検討する課題（参考）」 「D-13 各PT対応事案一覧表（参考）」	
16:05~16:50	ふりかえり	45分	・司会による進め方の説明 ・各PTごとにふりかえり ・各PTごとのふりかえり結果の発表		
16:50~17:00	講評・終了	10分	・講師者、本部長による講評		
17:00~17:10	アンケート	10分	・参加者に「事後アンケート」に協力していただく	参加者：「D-14 事後アンケートへのご協力のお願い」	



進行台本には、次の3種類の情報を記載しています。

**司会進行** : 司会進行を担当される方のための台本

**進行のポイント** : 司会進行における留意点やヒントなど

**講評のポイント** : 講評をされる方のための参考情報など

主に、司会進行および講評・本部長のための情報が中心ですが、資機材管理や記録を担当される方々も、この進行台本で全体の流れを把握しておく、より確実に役割を遂行することができるようになります。

司会進行及び講評に関しては、この進行台本に書かれている内容通りに説明すればワークショップを進行できるように作成していますが、対策部の名称を開催自治体に合わせたり、過去の災害事例を参考に災害の設定を差し替えたり、開催時間の長さや参加される職員の状況に応じて適宜内容を変更して実施してください。

参加者が円滑にワークショップでの議論に参加でき、活発な議論が行われるよう、本資料を参考にワークショップを進行してください。

## コンテンツ

1. ワークショップの説明	-----	C-4
2. 境界の確認ワーク	-----	C-9
3. 越境の体験ワーク	-----	C-14
4. ふりかえりワーク	-----	C-25

# 1 ワークショップの説明

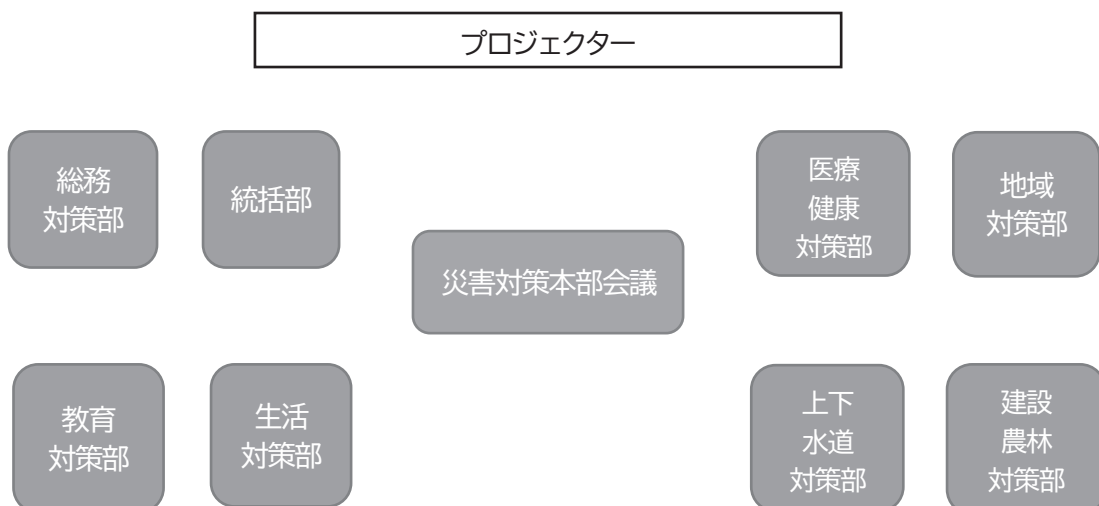
ここでは、ワークショップの目的や概要、ワークショップで用いる災害や被害の状況を司会が説明します。

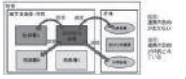
災害や被害の状況については、過去の災害事例を参考に適宜修正してお使いください。

## ■会場設営案


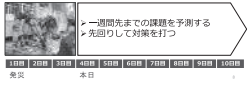
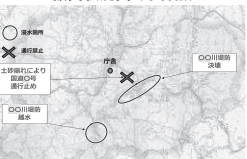
会場は、各対策部スペースを確保してください。続けて、「3 越境の体験ワーク」を実施する場合は、災害対策本部会議スペースも確保してください。

可能であれば、災害対策本部会議スペースを中央にしてください。そうすることで、本部会議での議論を各対策部員も聞き取りやすく、議論の方向性が把握できます。



	オリエンテーション資料	進行内容・ポイント
1	<p style="text-align: center;">令和〇年度（自治体名） 部署間越境・連携ワークショップ オリエンテーション</p>	<p><b>司会進行</b></p> <p>それでは、ただいまより、「部署間越境・連携ワークショップ」をはじめます。</p>
2	<p style="text-align: center;">ワークショップの目的</p> <p>①災害対策本部内の役割分担の確認 ②災害時における連携の重要性の理解 ③連携の前提となる越境を平常時から進めるための意識の醸成</p>	<p><b>司会進行</b></p> <p>ワークショップ（訓練）の目的を説明します。</p> <p>① 災害対策本部内の役割分担を確認する ② 災害時における連携の重要性を理解する ③ 連携の前提となる越境を平常時から進めるための意識を醸成する</p> <hr/> <p><b>進行のポイント</b></p> <p>目的は、ワークショップをする上で重要ですので、参加者に対して、最初にしっかりと目的を認識してもらおうようにしましょう。</p>
3	<p style="text-align: center;">越境とは</p> <p>複数の組織または部署が、連携を行う共通の目的を持たない状態で、ある組織または部署の者が、その他の組織または部署に対して能動的に連携に巻き込む行為</p> 	<p><b>司会進行</b></p> <p>「越境」という言葉はあまり聞きなじみがないかもしれませんが、「連携」と区別して使われます。</p> <p>「越境」とは、複数の組織または部署が連携を行う共通の目的を持たない状態で、ある組織または部署の者がその他の組織または部署に対して能動的に「連携」に巻き込む行為のことを指します。</p> <p>例えば、防災部局が福祉部局に対して災害時の対応を円滑にするために平常時から連携したいと考えている状況で、防災部局が、部局の境界を越えて福祉部局に対して連携に巻き込んでいく、という行為が「越境」に該当します。部署間「連携」が成立する前段階として「越境」の概念が重要になります。</p> <hr/> <p><b>進行のポイント</b></p> <p>ワークショップのポイントである「越境」の意味について、参加者にしっかりと認識してもらいましょう。理解してもらうためには、事例を踏まえて説明すると良いですが、上記の例以外に、各自治体でわかりやすい例に変えてもよいでしょう。</p>

<p>4</p>	<p><b>ワークショップの概要</b>          境界の確認ワーク          1 所管する事案の選択とフィードバック          越境の体験ワーク          2 第Y回災害対策本部会議          3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討          4 第Z回災害対策本部会議          ふりかえりワーク          5 全体ふりかえりと今後の対策の検討</p>	<p><b>司会進行</b></p> <p>プログラムを説明します。</p> <p>① 所管する事案の選択          まず、皆様に境界の確認のためのワークをしていただきます。状況付与事案に対して自身の部署が所管するかどうかについて検討いただく作業を〇分程度していただきます。</p> <p>② 第Y回災害対策本部会議          ここからは、越境の体験のワークをしていただきます。本部長より目標及び対応方針、プロジェクトチームの設置の指示がされます。会議の時間は〇分程度です。</p> <p>③ プロジェクトチームによる対策等の検討          あらかじめ指定された対策部員によりプロジェクトチームを構成し、プロジェクトチームごとに、災害の想定状況を踏まえて、対応すべき事案の把握、検討すべき課題の抽出、具体的な対策、実施対策部を検討していただきます。検討時間は〇分程度です。</p> <p>④ 第Z回災害対策本部会議          各プロジェクトチームから検討すべき課題及び具体的な対策を報告していただきます。会議の時間は〇分程度です。</p> <p>⑤ 全体ふりかえりと今後の対策の検討          最後に、ふりかえりワークをしていただきます。ワークショップのふりかえりと平時から実施すべき対策を検討していただきます。その後、各プロジェクトチームから検討結果を発表して全体に共有していただきます。ふりかえり時間は〇分程度です。</p>
		<p><b>進行のポイント</b></p> <p>ここでは全体の流れを簡単に説明してください。およその実施する事項と作業時間の目安を参加者にイメージを持っていただけてください。</p>
<p>5</p>	<p><b>プロジェクトチーム(PT)</b></p> <p>【PT設置を想定する原則】          ・ 部署を超えた対応のイメージを持つ          ・ 連携した方が効果的な場合があることを理解する</p> <p>【PT設置のメリット】          ・ 重点的に取り組む目的ごとに柔軟に設置・廃止が可能          ・ 固定的な組織（部署）では対応できない事案に対応可能</p> <p>例) 橋本地区防衛、益城町はPTを設置して災害対応を実施          ① 避難所対策：避難所の環境改善（衛生面・風雨対策）、避難所の集約          ② 住民への支援：避難所生活ニーズの把握、補給物資          ③ 情報発信：被災状況、支援要請等の迅速な発信、罹災証明書の発行の体制整備・対策          ④ 設備管理： 避難所環境の確保</p>	<p><b>司会進行</b></p> <p>（当自治体）では、災害時にプロジェクトチームを設置して対応するという計画はありませんが、今回なぜプロジェクトチームに分かれて作業をするのかという意図について説明します。その意図は、部署横断的に災害対応のイメージを持っていただき、ミッション遂行までの進捗管理を全体で担うことを意識していただき</p>

		<p>いたためです。これを体験していただいて、最終的に部署横断的に対応するための課題を抽出していただきたいと思います。そのため、今回は部署横断的なプロジェクトチームを設置させていただきました。</p> <p>プロジェクトチーム設置のメリットとしては、重点的に取り組むべき目的ごとに柔軟に立ち上げることができるということと、固定的な組織（部署）では対応できない事象に対応ができることが挙げられます。</p> <p>実際に熊本地震の時に、益城町では、計画にはなかったものの、プロジェクトチームを急遽設置して対応されています。</p>
		<p style="text-align: center;"><b>進行のポイント</b></p> <p>ここでは、なぜプロジェクトチームを設置した対応をさせるのかについて、その理由を参加者に理解していただくことが重要です。</p>
<p>6</p>	<p><b>災害の設定（水害編）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害発生日時 令和X年〇月〇日（〇）〇時〇分</li> <li>● 災害名 令和X年〇〇災害</li> <li>● 災害規模 24時間量 〇〇mm 河川氾濫・浸水被害が多数発生</li> <li>● 現在時間 令和X年〇月〇日（〇）〇時〇分 ※災害発生から4日目の想定 浸水した水の排水は完了</li> </ul> 	<p style="text-align: center;"><b>司会進行</b></p> <p>ここからは、ワークショップ（訓練）で用いる災害や被害の状況説明をいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害発生日時</li> <li>・ 災害名</li> <li>・ 災害の規模</li> <li>・ 訓練時間（災害発生から4日目） 等</li> </ul>
<p>7</p>	<p><b>発災から4日目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●被災地から情報が集まり、状況把握ができる時期</li> <li>●人命救助から生活支援に重点が移りつつある時期</li> </ul> 	<p style="text-align: center;"><b>司会進行</b></p> <p>ここで、災害発生から4日目の状況とは、どういう状況かについて説明します。</p> <p>4日目というのは、被災地から情報が集まってきて、状況把握がようやくできるようになってくる時期です。また、3日目までは人命救助が中心だったのが、4日目からは生活支援に重点が移りつつある時期となります。ですので、1週間先までの災害対応の課題を予測しながら先回りして対策を打っていくという時期になります。</p>
<p>8</p>	<p><b>被災状況図（水害編）</b></p> 	<p style="text-align: center;"><b>司会進行</b></p> <p>（被災状況の地図があれば）主要な被害状況の図を説明します。</p>

<p>9</p>	<p style="text-align: center;"><b>気象情報</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">[自治体別]</th> <th colspan="2">降水確率</th> <th colspan="2">気温予想</th> </tr> <tr> <th>今日</th> <th>明日</th> <th>今日</th> <th>明日</th> <th>今日</th> <th>明日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>晴</td> <td>晴</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>最高気温 33℃</td> <td>最低気温 26℃</td> </tr> <tr> <td>晴</td> <td>晴</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>最高気温 33℃</td> <td>最低気温 26℃</td> </tr> </tbody> </table> <p>● 週間天気予報</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>天気</th> <th>降水確率</th> <th>最高気温</th> <th>最低気温</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>晴</td> <td>10%</td> <td>33℃</td> <td>26℃</td> </tr> <tr> <td>晴</td> <td>10%</td> <td>33℃</td> <td>26℃</td> </tr> <tr> <td>晴</td> <td>10%</td> <td>33℃</td> <td>26℃</td> </tr> <tr> <td>晴</td> <td>10%</td> <td>33℃</td> <td>26℃</td> </tr> <tr> <td>晴</td> <td>10%</td> <td>33℃</td> <td>26℃</td> </tr> <tr> <td>晴</td> <td>10%</td> <td>33℃</td> <td>26℃</td> </tr> </tbody> </table>	[自治体別]		降水確率		気温予想		今日	明日	今日	明日	今日	明日	晴	晴	10%	10%	最高気温 33℃	最低気温 26℃	晴	晴	10%	10%	最高気温 33℃	最低気温 26℃	天気	降水確率	最高気温	最低気温	晴	10%	33℃	26℃	晴	10%	33℃	26℃	晴	10%	33℃	26℃	晴	10%	33℃	26℃	晴	10%	33℃	26℃	晴	10%	33℃	26℃	<p style="text-align: center;"><b>司会進行</b></p> <p>気象情報について説明します。</p> <p>3日後から雨が降る予測です。二次災害が警戒されます。</p> <p style="text-align: center;"><b>進行のポイント</b></p> <p>夏であれば、暑い気温の日を設定し、冬であれば寒い気温の日を設定し、暑さ対応、寒さ対応について検討してもらうことを意識させるように、その時期を強調して説明してください。</p>
[自治体別]		降水確率		気温予想																																																		
今日	明日	今日	明日	今日	明日																																																	
晴	晴	10%	10%	最高気温 33℃	最低気温 26℃																																																	
晴	晴	10%	10%	最高気温 33℃	最低気温 26℃																																																	
天気	降水確率	最高気温	最低気温																																																			
晴	10%	33℃	26℃																																																			
晴	10%	33℃	26℃																																																			
晴	10%	33℃	26℃																																																			
晴	10%	33℃	26℃																																																			
晴	10%	33℃	26℃																																																			
晴	10%	33℃	26℃																																																			
<p>10</p>	<p style="text-align: center;"><b>被害状況①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人的被害             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 死者 18名 行方不明 2名</li> <li>▶ 負傷者 100人以上 重傷者 10人</li> </ul> </li> <li>● 建物被害             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 全半壊 50以上 (詳細は未確認)</li> <li>▶ 床上浸水 500以上 (詳細は未確認)</li> </ul> </li> <li>● 交通施設の被害状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 主要道路は一部冠水し、通行止め箇所が発生</li> <li>▶ バス・電車などの公共交通機関は運行停止中 (再開時期未定)</li> </ul> </li> <li>● 河川・堤防の被害状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 河川の暴落被害および洪水による家屋被害が発生</li> <li>▶ 堤防の緊急復旧工事が進められているが、復旧完了は未定</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>被害状況②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ライフライン被害             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 電気は一部地域で停電が発生しており、翌日には復旧する見通</li> <li>▶ 水道施設の被害により一部地域で断水が発生。復旧は未定</li> <li>▶ 電話は、固定電話、携帯電話ともつながりにくい状態</li> <li>▶ ガスは支障なし</li> </ul> </li> <li>● 医療・福祉サービスの状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 一部の病院・診療所も断水被害あり、慢性疾患等の通院診療に支障が発生</li> </ul> </li> <li>● 新型コロナウイルス感染症の状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 病院、自治体等で前例未だの患者数は5~10名程度で継続して発生、県内や近隣県においても同様</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>避難者の状況・対応①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難者の状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 現在、自治体内の〇ヶ所の指定避難所のうち〇ヶ所が開設中</li> <li>▶ 指定・自主避難所に現在〇人以上が避難中</li> <li>▶ 一部の指定避難所に避難者が集中しており、収容率 120%を越える避難所が発生</li> <li>▶ 指定避難所ではない公共施設や民営施設も自衛隊、自衛隊員などにも多数の避難者がいるが、給食の配給は未定</li> </ul> </li> <li>● 災害時要配慮者への対応             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 福祉施設〇ヶ所が福祉避難所として開設</li> <li>▶ 支援物資(食料等)は配達されつつあるが、災害時要配慮者のためのベッドが不足</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>避難者の状況・対応②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難所の環境             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 多くの指定避難所で住居は雑魚堀</li> <li>▶ 仮設トイレは事前計画数を超過したが、避難者に比べて不足</li> <li>▶ 食料支援物資が不足に達する指定避難所があり、今後の雨による食料支援の危機を懸念</li> </ul> </li> <li>● 食料・物資等の配布状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 支援物資(食料品等)は、指定・福祉避難所へ円滑に配達</li> <li>▶ 指定・福祉避難所への食料は十分な量が配達されているが、おにぎりの他に菓子パン、カップラーメンの供給のみ</li> </ul> </li> <li>● ボランティアセンター等の開設状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 社会福祉協議会によりボランティアセンター開設済、県内に随って募集</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>自治体の対応状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 庁舎・職員状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 庁舎は昨日からライフライン復旧済み、建物被害はない</li> <li>▶ 職員の対応は確認済み、参加率は〇割程度</li> <li>▶ 災害発生直後から全職員が不眠不休で対応に当たっており、疲労により体調を崩す職員あり</li> <li>▶ 指定避難所に職員が配置されているが疲労あり</li> </ul> </li> <li>● 住民の安否確認の状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 自治会等を通じて安否確認を実施中でありほぼ終了</li> </ul> </li> <li>● 医療・福祉サービスの状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 指定避難所に保健所、救護所の派遣や巡回が行われているが、人員が足りず、指定避難所の逼迫のみ</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>国・県の対応状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 災害対応(〇日) 内閣府災害対策本部を派遣、TEC-FORCE派遣入り</li> </ul> </li> <li>● 県             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 災害対応(〇日) 県災害対策本部を設置</li> <li>▶ 自衛隊派遣要請、緊急対応部隊派遣要請-DMATO派遣要請</li> <li>▶ 災害対応(〇日) 応急対応要員派遣(土木・建築)</li> <li>▶ 災害対応要員派遣、保健所専門派遣隊派遣</li> </ul> </li> <li>● 自衛隊・緊急対応部隊、医療支援チーム             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 災害対応要員、人命救助、給水支援、水防活動、道路復旧、物資搬送を中心に活動中</li> <li>▶ 日本赤十字、DMATと連携し、災害日より医療、救護活動を実施中</li> </ul> </li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>司会進行</b></p> <p>被害状況等について説明します。(スライドに記載の事項を説明)</p> <p style="text-align: center;"><b>進行のポイント</b></p> <p>被害状況等については、細かい設定を入れるほど、説明に時間がかかるため、ワークショップ全体の時間を踏まえて適宜分量を調整する必要があります。</p>																																																				

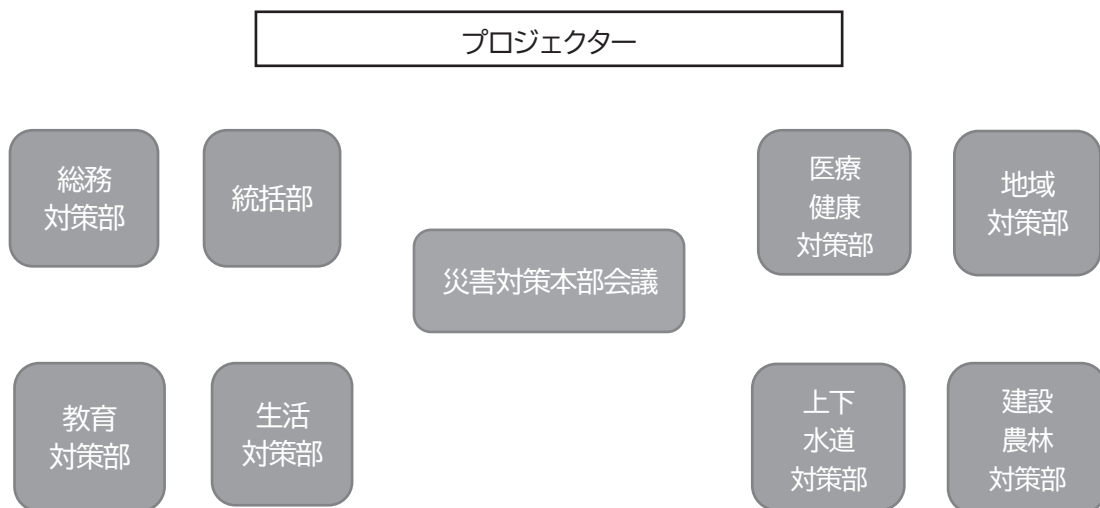




## ■会場設営案

会場は、「1 ワークショップの説明」時と同様に各対策部スペースを確保してください。続けて、「3 越境の体験ワーク」を実施する場合は、災害対策本部会議スペースも確保してください。


可能であれば、災害対策本部会議スペースを中央にしてください。そうすることで、本部会議での議論を各対策部員も聞き取りやすく、議論の方向性が把握できます。



## ■使用資機材

ペン（参加者人数分）

	オリエンテーション資料	進行内容、ポイント																																												
11	<p><b>ワークショップの概要</b></p> <p>境界の確認ワーク</p> <p>1 所管する事案の選択とフィードバック</p> <hr/> <p>境界の体験ワーク</p> <p>2 第Y回災害対策本部会議</p> <p>3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討</p> <p>4 第Z回災害対策本部会議</p> <hr/> <p>ふりかえりワーク</p> <p>5 全体ふりかえりと今後の対策の検討</p>	<p><b>司会進行</b></p> <p>では、先ほど説明したような状況設定のもとで、各対策部に境界の確認ワークとして、所管する事案の選択作業に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>災害時には事前に決められた所掌業務に含まれない事案が発生したり、所掌業務が曖昧で役割を押し付け合ったりして対応の抜け漏れが生じてしまう恐れもあります。このワークでは、まず、自分たちの対策部の役割を再確認し、認識の齟齬があれば、それを解消していくことを目的としています。</p> <p>それでは、「D-5 状況付与表」と各対策部に「D-6 状況付与表（各部提出用）」の配付をお願いします。</p> <p><b>進行のポイント</b></p> <p>ここで、参加者に「D-5 状況付与表」を、各対策部に「D-6 状況付与表（各部提出用）」配付していただきます。また、事前に配付している資料も見るように促します。資料が行き渡ったら説明を続けます。</p>																																												
12	<p><b>ワークショップ</b></p> <p>境界の確認ワーク</p> <p>1 所管する事案の選択とフィードバック</p> <p>【目的】 各災害対策部の役割の再確認と認識の齟齬の解消</p> <p>【進め方】 ①対策部対象として対応すべき事案は、主ではないが関係して対応する必要のある事案（注）。「状況付与表」の右側の出部の縦欄に記入 ②各対策部で首肯したものを1部提出、集約 ③集約した表により対策部の対応の範囲を確認、解消 状況付与表（例）</p> <table border="1" data-bbox="271 1321 526 1366"> <thead> <tr> <th>部</th> <th>所管する事案</th> <th>対応範囲</th> <th>対応状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>第二</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>第三</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>第四</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>第五</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>第六</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>第七</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>第八</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>第九</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> </tr> <tr> <td>第十</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> </tr> </tbody> </table>	部	所管する事案	対応範囲	対応状況	第一	〇	〇	〇	第二	〇	〇	〇	第三	〇	〇	〇	第四	〇	〇	〇	第五	〇	〇	〇	第六	〇	〇	〇	第七	〇	〇	〇	第八	〇	〇	〇	第九	〇	〇	〇	第十	〇	〇	〇	<p><b>司会進行</b></p> <p>これから、ワークの進め方について説明します。</p> <p>今、お配りした「D-5 状況付与表」には、災害発生から4日目頃に出てくるであろう住民の皆さんからの苦情や様々な事案40項目を記載しています。</p> <p>それぞれの事案について各対策部で議論いただき、自分たちの対策部が主となって取り組むべき事案については◎を、主ではないが関係して対応する必要のある事案については○を、記載例のように表の右側にある対策部の縦の欄に記入してください。</p> <p>制限時間は〇分です。各対策部で整理していただき、「D-6 状況付与表（各部提出用）」1部を提出していただきます。（パソコンがある場合はデータで提出）</p> <p>それでは、始めてください。</p>
部	所管する事案	対応範囲	対応状況																																											
第一	〇	〇	〇																																											
第二	〇	〇	〇																																											
第三	〇	〇	〇																																											
第四	〇	〇	〇																																											
第五	〇	〇	〇																																											
第六	〇	〇	〇																																											
第七	〇	〇	〇																																											
第八	〇	〇	〇																																											
第九	〇	〇	〇																																											
第十	〇	〇	〇																																											

		<p><b>進行のポイント</b></p> <p>この作業のポイントは、次の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域防災計画等で決められている役割を理解しているかの確認</li> <li>② 境界が曖昧な事案にどう対応するかの確認</li> <li>③ 次のワークに向けた想定被害状況の把握</li> </ol> <p>作業時間が短いので、できるだけ簡潔に、わかりやすく説明してください。</p> <p>できれば各対策部にパソコンを用意し、回答はデータで提出してもらってください。（データで提出してもらえば、コピー&amp;ペーストでスムーズに解答が集計できます。手書きの場合は、集計に時間がかかります。）</p> <p>解答ができた対策部から順次提出してもらい、集計に取り掛かってください。全対策部の集計がまとまり次第、大型スクリーンに映し出してください。</p>
13		<p><b>司会進行</b></p> <p>集計ができましたので、皆さん、大型スクリーンをご覧ください。皆さんに記入していただいた結果、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全く◎の付かなかった事案は〇〇件で、事案は△△でした。（又はありませんでした）</li> <li>・ ◎の付かなかった事案は〇〇件で、事案は△△でした。</li> <li>・ ◎が重複した事案は〇〇件で、事案は△△でした。 等</li> </ul> <p>講評者から、この結果に対してコメントをいただきます。</p> <p>（講評者コメント）</p> <p>（講評者に対し）ありがとうございました。</p> <p>このワークで、皆さんの対策部の役割は確認できたでしょうか。曖昧な事案に対して積極的に対応することを選択したでしょうか。ただ今の評価者からのコメントを今後の災害対応に生かしていただきますよう、お願いします。</p> <p>また、「D-5 状況付与表」に示された事案によって、災害から4日目の被災地の状況がイメージできるようになったでしょうか。最初に説明のあった状況設定とともに、次からのワークに必要となりますので、状況をよく把握しておいてください。</p>

		<p style="text-align: center;"><b>評価のポイント</b></p> <p>評価のポイントは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全く◎○が付かなかった場合、どこかの対策部で必ず対応する必要があること。どこの部署にも該当しない事案はどこが対応するかを事前に決めておくことを助言してください。</li> <li>・◎が付かない事案については、○を付けた対策部で必ず主となる部署を決めるよう助言してください。</li> <li>・◎が複数ある事案については、◎を付けた対策部で必ず主となる部署を決めるよう助言してください。</li> </ul> <p>また、事前に解答例を作成しておき、それと比較して◎○を付けていない場合は、その理由を質問してください。</p>
--	--	--

# 3 越境の体験ワーク

越境の体験ワークでは、プロジェクトチーム（PT）を設置し、PT ごとに災害対応の検討を行います。具体的に、①第 Y 回災害対策本部会議、②PT による対策等の検討、③第 Z 回災害対策本部会議の 3 つの作業をします。

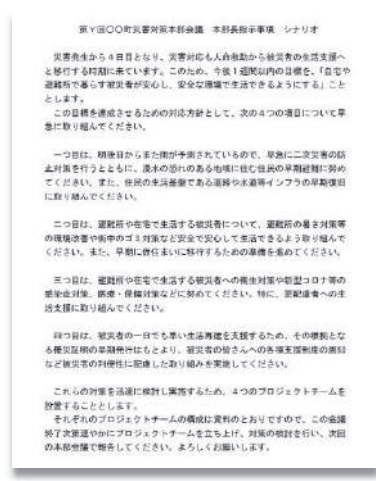
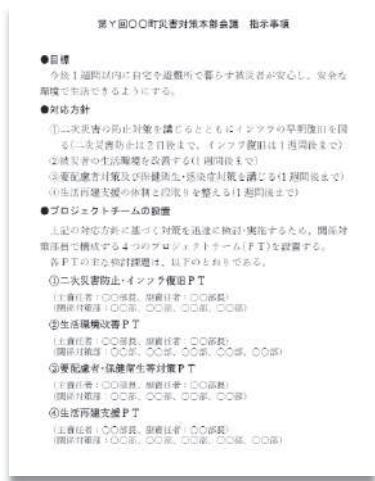
## ■使用資料

### ①第 Y 回災害対策本部会議

- ：各対策部長に「D-8 第 Y 回災害対策本部会議 指示事項（配布資料）」を配布
- ：本部長に「D-9 第 Y 回災害対策本部会議 本部長指示事項（読み原稿）」を配布

各対策部長：「D-8 第 Y 回災害対策本部会議  
指示事項（配布資料）」

本部長：「D-9 第 Y 回災害対策本部議  
本部長指示事項（読み原稿）」



### ②PT（プロジェクトチーム）による対策等の検討

- ：各 PT に「D-10 各 PT 対応事案一覧表」、「D-11 各 PT 対応事案一覧表（記載例）」を配布

「D-10 各 PT 対応事案一覧表」

各プロジェクトチーム対応事案一覧表（様式）

プロジェクトチーム名	検討すべき課題	最終的な対応（実施計画案）
1		
2		
3		

「D-11 各 PT 対応事案一覧表（記載例）」

各プロジェクトチーム対応事案一覧表（記載例）

プロジェクトチーム名: OOO	検討すべき課題	最終的な対応（実施計画案）
1	避難所での生活物資の確保と配布の効率化	避難所ごとに物資の在庫を把握し、配布の順序を優先順位に基づき決定する。また、配布の時間帯を調整し、待ち時間を短縮させる。
2		
3		

### ③第2回災害対策本部会議

: 本部長に「D-12 各 PT 対応事案一覧表 (参考)」、「D-13 各 PT が検討する課題 (参考)」を配布

#### 「D-12 各 PT 対応事案一覧表 (参考)」

各プロジェクトチーム対応事案一覧表 (想定)

プロジェクトチーム名	二次災害防止・インフラ復旧	被災者の対応 (被災者支援)
1	二次災害防止の徹底実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所(仮設)の確保、避難生活の支援、避難生活の安定</li> <li>避難生活の安定、避難生活の支援</li> </ul>
2	被災者の生活再建支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の生活再建支援</li> <li>被災者の生活再建支援</li> <li>被災者の生活再建支援</li> </ul>
3	被災者の生活再建支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の生活再建支援</li> <li>被災者の生活再建支援</li> </ul>
4	被災者の生活再建支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の生活再建支援</li> </ul>

各プロジェクトチーム対応事案一覧表 (想定)

プロジェクトチーム名	生活再建支援	被災者の対応 (被災者支援)
1	被災者の生活再建支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の生活再建支援</li> <li>被災者の生活再建支援</li> </ul>
2	被災者の生活再建支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の生活再建支援</li> <li>被災者の生活再建支援</li> </ul>
3	被災者の生活再建支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の生活再建支援</li> <li>被災者の生活再建支援</li> </ul>
4	被災者の生活再建支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の生活再建支援</li> </ul>

各プロジェクトチーム対応事案一覧表 (想定)

プロジェクトチーム名	被災者の対応 (被災者支援)	被災者の対応 (被災者支援)
1	被災者の対応 (被災者支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> </ul>
2	被災者の対応 (被災者支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> </ul>
3	被災者の対応 (被災者支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> </ul>
4	被災者の対応 (被災者支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> </ul>

各プロジェクトチーム対応事案一覧表 (想定)

プロジェクトチーム名	被災者の対応 (被災者支援)	被災者の対応 (被災者支援)
1	被災者の対応 (被災者支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> </ul>
2	被災者の対応 (被災者支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> </ul>
3	被災者の対応 (被災者支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> </ul>
4	被災者の対応 (被災者支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の対応 (被災者支援)</li> </ul>

#### 「D-13 各 PT が検討する課題 (参考)」

各プロジェクトチームが検討する課題 (想定)

- 二次災害防止・インフラ復旧 PT
 

(注責任者: OO課長, 副責任者: OO課長)

検討課題: ○○課長, ○○課長, ○○課長

  - 二次災害防止の徹底実施
  - 被災者の生活再建支援
- 生活再建支援 PT
 

(注責任者: OO課長, 副責任者: OO課長)

検討課題: ○○課長, ○○課長, ○○課長

  - 被災者の生活再建支援
  - 被災者の生活再建支援
- 被災者の生活再建支援 PT
 

(注責任者: OO課長, 副責任者: OO課長)

検討課題: ○○課長, ○○課長, ○○課長

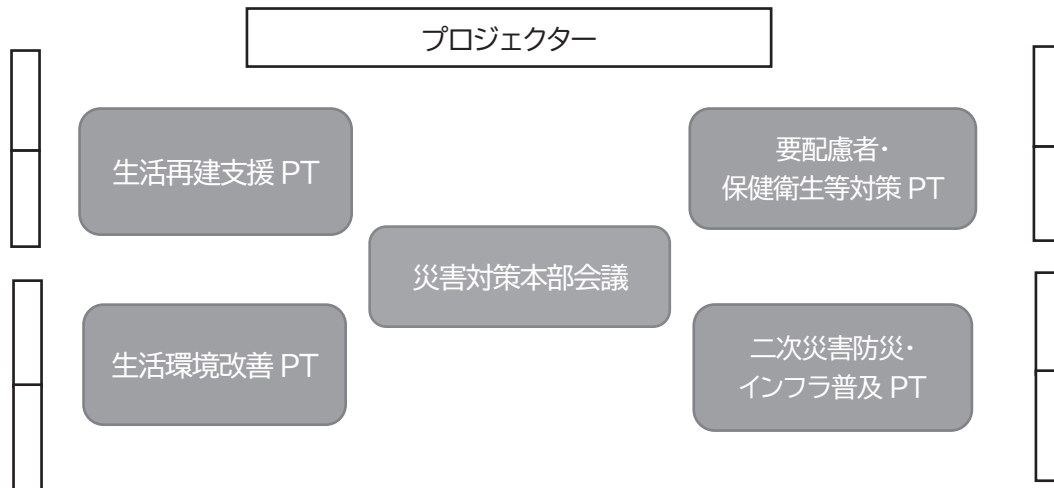
  - 被災者の生活再建支援
  - 被災者の生活再建支援

## ■会場設営案

会場は、災害対策本部会議スペースとプロジェクトチームスペースを確保してください。

①第Y回災害対策本部会議が終わった後、②PT（プロジェクトチーム）による対策等の検討では、各PTで作業をするため、図のように会場のレイアウトを変更します。

各PTには、ホワイトボード2枚、模造紙1枚、付箋、ペンを配置します。



## ■使用資機材

ホワイトボード8枚

模造紙4枚

付箋

ペン

	オリエンテーション 資料	進行内容、ポイント
14	<p>ワークショップの概要</p> <p>境界の確認ワーク</p> <p>1 所管する事業の選択とフィードバック</p> <hr/> <p>越境の体験ワーク</p> <p>2 第Y回災害対策本部会議</p> <p>3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討</p> <p>4 第Z回災害対策本部会議</p> <hr/> <p>ふりかえりワーク</p> <p>5 全体ふりかえりと今後の対策の検討</p>	<p><b>司会進行</b></p> <p>では、ここから、越境の体験ワークを実施します。</p> <p>平常時は部署ごとに縦割りで業務を行うことが多いですが、災害時にも縦割りで対応に当たると抜け漏れが生じる恐れがあります。また、事案によっては部署間で連携して対応する方が効率的な場合もあります。</p> <p>このワークでは、様々な部署の職員が一つのチームとなり、それぞれが持つ専門的な知識をもとに積極的に議論に参加することで、縦割りでは出てこない考え方や対応の手法に気づき、抜け漏れの無い、より効果的な対応方策を打ち出すことができるようになることを体験していただきます。</p> <p>それでは、始めます。</p> <p>まず、第Y回災害対策本部会議を開催しますので、（首長名）及び各対策部の部長は、本部会議の座席に着席願います。</p> <p>（着席後に）</p> <p>各対策部長に「D-8 第Y回災害対策本部会議 指示事項（配布資料）」の配付をお願いします。</p> <hr/> <p><b>進行のポイント</b></p> <p>ここで各対策部長に「D-8 第Y回災害対策本部会議 指示事項（配布資料）」を、本部長に「D-9 第Y回災害対策本部会議 本部長指示事項（読み原稿）」を配付していただきます。</p> <p>資料が行き渡ったら説明を続けます。</p> <hr/> <p><b>司会進行</b></p> <p>これから、第Y回災害対策本部会議の想定について説明します。</p> <p>現在、災害発生から4日目で、第X回災害対策本部会議が終了していると想定します。</p> <p>また、第Y回災害対策本部会議につきましても、最初に説明しました被害状況の報告や各対策部の取り組み状況の報告は終了しているものとし、最後に首長からの指示が行われるという想定です。</p>



		<p><b>進行のポイント</b></p> <p>本部会議出席者の認識を統一するため、本部会議を始める前に想定について説明します。</p>															
<p>15</p>	<p>越境の体験ワーク 2 第Y回災害対策本部会議</p> <p>【目的】 災害対応を迅速に実施するため、本部長より指示</p> <p>目標： 今後1週間以内に被災者が安心し、安全な環境で生活できるようにする</p> <p>対応方針： ①二次災害の防止・インフラの早期復旧 ②被災者の生活環境改善 ③要配慮者・保健衛生・感染症対策 ④生活再建支援体制の構築</p> <p>プロジェクトチーム（PT）の設置</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>PT名</th> <th>責任者</th> <th>関係対策部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①二次災害防止・インフラ復旧PT</td> <td>主：建設課長 副：上下水道課長</td> <td>建設部 建設対策部 教育対策部</td> </tr> <tr> <td>②生活環境改善PT</td> <td>主：生活対策課長 副：生活対策課長</td> <td>建設部 建設対策部 環境対策部</td> </tr> <tr> <td>③要配慮者・保健衛生・感染症対策PT</td> <td>主：医療課長 副：保健課長</td> <td>建設部 建設対策部 教育対策部</td> </tr> <tr> <td>④生活再建支援PT</td> <td>主：生活対策課長 副：生活対策課長</td> <td>生活対策部 災害復旧対策部 環境対策部</td> </tr> </tbody> </table>	PT名	責任者	関係対策部	①二次災害防止・インフラ復旧PT	主：建設課長 副：上下水道課長	建設部 建設対策部 教育対策部	②生活環境改善PT	主：生活対策課長 副：生活対策課長	建設部 建設対策部 環境対策部	③要配慮者・保健衛生・感染症対策PT	主：医療課長 副：保健課長	建設部 建設対策部 教育対策部	④生活再建支援PT	主：生活対策課長 副：生活対策課長	生活対策部 災害復旧対策部 環境対策部	<p><b>司会進行</b></p> <p>それでは、ワークショップをスタートさせます。</p> <p>（ここからワークショップ）</p> <p>最後に、本部長より発言がございます。〇〇本部長、よろしくお願いいたします</p> <p>（本部長からの発言例）</p> <p>災害発生から4日目となり、災害対応も人命救助から被災者の生活支援へと移行する時期に来ています。このため、今後1週間以内の目標を、「自宅や避難所で暮らす被災者が安心し、安全な環境で生活できるようにする」こととします。</p> <p>この目標を達成させるための対応方針として、次の4つの項目について早急に取り組んでください。</p> <p>一つ目は、二日後からまた雨が予測されていることから、早急に二次災害の防止対策を行うとともに、浸水の恐れのある地域に住む住民の早期避難に努めてください。また、住民の生活基盤である道路や水道等インフラの早期復旧に取り組んでください。</p> <p>二つ目は、避難所や在宅で生活する被災者について、避難所の暑さ対策や街中のゴミ対策など安全で安心して生活できるよう環境改善に取り組んでください。また、早期に仮住まいに移行するための準備を進めてください。</p> <p>三つ目は、避難所や在宅で生活する被災者への衛生対策や新型コロナ等の感染症対策、医療・保健対策などに努めるとともに、特に要配慮者への生活支援に取り組んでください。</p> <p>四つ目は、被災者の一日でも早い生活再建を支援するため、その根拠となる罹災証明の早期発行はもとより、被災者の皆さんへの各種支援制度の周知など被災者の利便性に配慮した取り組みを実施してください。</p> <p>これらの対策を迅速に検討し実施するため、4つのプロジェクトチームを設置することとします。</p> <p>それぞれのプロジェクトチームの構成は資料のとおりですので、この会議終了次第速やかにプロジェクトチームを立ち上げ、対策の検討を行い、次回の本部会議で報告してください。よろしくお願いいたします。</p>
PT名	責任者	関係対策部															
①二次災害防止・インフラ復旧PT	主：建設課長 副：上下水道課長	建設部 建設対策部 教育対策部															
②生活環境改善PT	主：生活対策課長 副：生活対策課長	建設部 建設対策部 環境対策部															
③要配慮者・保健衛生・感染症対策PT	主：医療課長 副：保健課長	建設部 建設対策部 教育対策部															
④生活再建支援PT	主：生活対策課長 副：生活対策課長	生活対策部 災害復旧対策部 環境対策部															

### 進行のポイント

プロジェクトチームを編成することについては、「地域防災計画上決められていないので自分たちの自治体ではできない」などの意見もありますが、あくまでもこのワークショップで部署間の越境や連携を体験していただくために便宜上設けるものであり、そういうワークショップの設定であるをご理解ください。（プロジェクトチームの編成を推奨しているものではありません）

目標と対応方針も、各自治体で検討し、できるだけ多くの部署の職員が連携しないと実施できないような内容の目標・対応方針を設定してください。なお、目標・対応方針を絞ることで参加人数や対策部の数を限定することも可能です（逆に多くすることも可能です）。

本部長の発言例については、課題検討をよりスムーズに進めるために具体的な検討ポイントを盛り込んでいますが、もっとシンプルにプロジェクトチーム名のみを伝え、プロジェクトチーム構成員に今後どういうことが起こるかを予測させながら課題と対応策を検討させるという方法も考えられます。

プロジェクトチームの数は、対応方針の数や対策部（部長）の数などを考慮しながら決めてください。

### 司会進行

（本部長指示終了後）



これから、各部長はそれぞれの対策部に戻っていただいた後、対策部員に対してプロジェクトチームが設置されたことを報告のうえ、部員の各プロジェクトチームへの割り振りを決めてください。その際、全部員がいずれかのプロジェクトチームに入るよう割り振ってください。



割り振りの決まった部員は、〇時〇分までに各プロジェクトチーム主責任者のテーブルに集合してください。

地域防災計画でプロジェクトチームの設置を定めていない自治体にあっては、以下について説明してください。

なお、当（自治体名）では、地域防災計画上プロジェクトチームの設置は定めていませんが、今回のワークショップで部署間の越境や連携を体験していただくために便宜上設けていますので、ご理解願います。

以上で、第Y回本部会議は終了します。

		<p><b>進行のポイント</b></p> <p>本部会議終了後、プロジェクトチームで検討しやすいように会場のレイアウトを変更してください。</p> <p>各プロジェクトチームに相応しい人員を配置できるかも評価のポイントになりますが、決めるのに時間がかかることもありますので、事前に決めておくことでもかまわないと思います。</p>
<p>16</p>	<p><b>ワークショップの概要</b>          越境の体験ワーク          1 所管する事業の選択とフィードバック</p> <p>越境の体験ワーク          2 第Y回災害対策本部会議          3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討          4 第Z回災害対策本部会議</p> <p>ふりかえりワーク          5 全体ふりかえりと今後の対策の検討</p> <p>越境の体験ワーク          3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討</p> 	<p><b>司会進行</b></p> <p>（各プロジェクトチームの構成員が配置についてした後）          それでは、プロジェクトチームの進め方について説明します。</p> <p>まず、全体の流れです。①の現状把握については、これまでのワーク等ですでに把握いただいているものと思います。</p> <p>次に、どんな課題があるかをチーム全体で議論していただき、その課題ごとに具体的な対応方策や実施する対策部を検討していただきます。全体で60分の予定です。</p> <p>また、最後に本部会議で報告していただきます。</p> <p><b>進行のポイント</b></p> <p>作業を円滑に進めたり時間を管理するために、プロジェクトチームごとにファシリテーターを付けることも考えられます。</p> <p>また、事前に同じようなワークショップを体験しておくことで作業が円滑に進みます。</p> <p>各プロジェクトチームに、「D-10 各PT 対応事案一覧表」と「D-11 各PT 対応事案一覧表（記載例）」を配布してください。</p>
<p>17</p>	<p><b>①現状の把握</b></p> <p>【目的】          現在、被災者・被災社会は、どのような困難に直面しているのか、正しく把握する</p> <p>【進め方】          「災害の設定」資料、「状況付与表」資料をもとに把握          ※すでに把握している</p> 	<p><b>司会進行</b></p> <p>まず、現状把握ですが、最初の状況設定の資料や状況付与表から、現在の状況を正確に把握していただきます。</p>

<p>18</p>	<p><b>②課題の抽出</b></p> <p>【目的】 被災者の生活や被災地の状況から、今後1週間以内に、PTで検討すべき課題を決定する</p> <p>【進め方】 ・どのような課題があるか、1人5つ程度考え、付箋に記入する ・5つずつ付箋に1つの課題を書き込み、整理する ・1人ずつ付箋を発表し、模造紙に貼り、整理する ・PTで優先して検討すべき課題を3つ決定する</p> 	<p><b>司会進行</b></p> <p>次に、被災者の生活や被災地の状況から、今後検討する必要のある課題を抽出します。20分程度でお願いします。</p> <p>まず、プロジェクトチームごとの対応方針に基づき、どんな課題があるかを各チーム員がそれぞれ5つずつ付箋に記入してください。5分ぐらいでお願いします。</p> <p>次に、イメージ図のように記入した付箋を模造紙に貼っていくと同時に関連のある付箋を集めて整理してください。この作業の進行役は、プロジェクトチームの責任者が行ってください。この作業は10分ぐらいでお願いします。</p> <p>その後、チーム員全員で議論しながら、整理した課題の中から優先すべき課題を5分程度で2～3つ選んでください。</p> <p>各自それぞれの対策部を代表してチームに参加しています。発言が無い場合や少ない場合は、その対策部が所管している課題が漏れ落ちる可能性がありますので、積極的に議論に参加してください。</p>
		<p><b>進行のポイント</b></p> <p>課題の整理方法として、最初の人を指名して付箋を出してもらい、それに近い内容を書いた他の人からも付箋を出していただきます。次からも同じような方法で付箋を出していき、関連のある内容を集めていき、最後に大枠でくくってタイトルを付けていきます。</p> <p>議論に積極的に参加すること、発言がないと、その対策部が所管する課題が漏れ落ちる可能性があることを説明してください。</p>
<p>19</p>	<p><b>③具体的対策と実施対策部の決定</b></p> <p>【目的】 ・各課題を解決するための<b>具体的対策</b>の決定 ・具体的対策を実施する<b>対策部</b>の決定</p> <p>【進め方】 ホワイトボードを使用 検討結果を「各PT対応事案一覧表」へ記載</p> 	<p><b>司会進行</b></p> <p>次に、各課題を解決するための具体的対策とそれを実施する対策部を検討します。35分程度でお願いします。</p> <p>決定した検討すべき課題ごとに、できるだけ具体的な対策とそれを実際に実施する対策部をホワイトボードを使いながら、チーム全員で検討していきます。</p> <p>各自それぞれの対策部を代表してチームに参加しています。発言が無い場合や少ない場合は、その対策部が所管している対策が漏れ落ちる可能性がありますので、積極的に議論に参加してください。</p> <p>検討結果については、「D-10 各PT対応事案一覧表」に記載してください。</p> <p>なお、ホワイトボードや様式への記載については、プロジェクトチーム構成員の中から書記役を出してください。</p>

		<p><b>進行のポイント</b></p> <p>ホワイトボードを使いながら、全員で議論を進めてすすめてください。</p> <p>できるだけ、具体的な対策を検討してください。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「避難所の風呂対策」といった課題に対し、単に「仮設風呂を設置する」とするのではなく、「県を通じて自衛隊に支援を要請し、〇〇避難所に仮設風呂を設置する」「〇〇荘の風呂を開放するとともに、送迎のためのバスを運行する」「〇〇ゴルフ場に風呂の開放を要請する」「市町広報やコミュニティFM、SNS等を活用して住民に入浴関連の情報提供を行う」など具体的な対策を検討してください。</li> </ul> <p>そのためには、各対策部から参加しているプロジェクトチーム構成員が議論に積極的に参加する必要があり、発言がないと、その対策部が所管する対策が漏れ落ちる可能性があることを説明してください。</p>
20	<p><b>ワークショップの概要</b></p> <p>境界の確認ワーク</p> <p>1 所管する事案の選択とフィードバック</p> <p>2 第Y回災害対策本部会議</p> <p>3 プロジェクトチーム (PT) での対策等の検討</p> <p>4 第Z回災害対策本部会議</p> <p>ふりかえりワーク</p> <p>5 全体ふりかえりと今後の対策の検討</p>	<p><b>司会進行</b></p> <p>終わりましたら、10 分間休憩の後、第Z回災害対策本部会議を開催します。</p> <p>各プロジェクトチームから検討すべき課題と課題解決に向けた具体的対策と実施する対策部について、1 チーム 6 分程度でチーム責任者が報告してください。</p> <p>報告の後、本部長や講師からの質疑応答を 4 分程度行います。</p> <p>それでは、各チーム作業を開始してください。</p> <p>(ワークショップ作業・60 分)</p> <p>作業が終了したチームから、休憩に入ってください。</p> <p>また、清書した「D-10 各 PT 対応事案一覧表」を提出してください。</p> <p>(10 分間休憩)</p> <p>(休憩後)</p>

21

21  
 4 第2回災害対策本部会議  
【目的】  
 各PT責任者から、PTで検討すべき課題・課題解決  
 に向けた具体的対策・実施対策部を詳表  
【議程】  
 各PT主責任者からの報告の後、本部長や調評者からの  
 質疑応答



### 司会進行

それでは、これから始めます、第2回災害対策本部会議について説明いたします。これから、各プロジェクトチームより、検討していただいた対応事案について報告をしていただきます。

各プロジェクトチームの対応事案一覧表は、お手元に配布している資料を確認してください。会議メンバー以外は、前のスクリーンを見てください。

会議が始まりましたら、順番にプロジェクトチーム名を指名いたしますので、各チーム約6分で主責任者から報告をお願いします。

報告の後、約4分間質疑応答の時間とさせていただきますので、ご回答をよろしくをお願いします。

質問は、本部長または講評者から行います。

それでは、会議をはじめます。

ただいまより、第2回災害対策本部会議を開催いたします。

〇〇プロジェクトチームより、対応事案について報告をお願いいたします。

( . . . . 報告 . . . . )

質疑応答に移ります。何かご質問はありますか。

( 質疑応答 )

( 以下、報告、質疑応答の繰り返し )

( 報告、質疑応答が全て終了後 )

以上をもちまして、第2回災害対策本部会議は終了いたします。

### 進行のポイント

清書された「D-10 各 PT 対応事案一覧表」は、休憩時に少なくとも本部会議出席者分をコピーして、本部会議で配付してください。また、その他の参加者のために発表時にスクリーンに映し出してください。

プロジェクトチームからの報告・質疑応答が長引く恐れもありますので、時計や警告音等を活用して時間管理をしっかりと行ってく

		<p>ださい。</p> <p>質問は、できるだけ本部長から行っていただくのが望ましいです。</p> <p>(緊張感をもって報告・質疑応答に望んでもらえます)</p>
		<p><b>講評のポイント</b></p> <p>質問のポイントは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に模範的な回答を準備しておき(「D-12 各 PT 対応事案一覧表(参考)」、「D-13 各 PT が検討する課題(参考)」を参考に)、検討すべき課題の中に含まれていない場合、検討材料として議論されたのか、なぜ課題から抜け落ちたのか、課題の優先順位の付け方等について理由を確認する。</li> <li>・具体的な対応方策で無いものがある場合は、なぜ無いのか、議論はしたのか、こういった観点は必要ないのかを質問する。</li> <li>・対応策の内容が不十分な場合は、もっと踏み込んだ内容について質問する。</li> </ul>

## 4 ふりかえりワーク

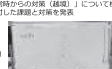
ふりかえりワークでは、プロジェクトチームごとにワークショップを通して得た課題を抽出し、全体での共有を行います。

### ■使用資機材

ホワイトボード

(越境の体験ワークで使用したホワイトボードの裏面をご使用ください)



	オリエンテーション資料	進行内容、ポイント
22	<p>ワークショップの概要</p> <p>境界の確認ワーク</p> <p>1 所管する事業の選択とフィードバック</p> <p>2 第Y回災害対策本部会議</p> <p>3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討</p> <p>4 第Z回災害対策本部会議</p> <p>ふりかえりワーク</p> <p>5 全体ふりかえりと今後の対策の検討</p>	<p><b>司会進行</b></p> <p>それでは、ふりかえりワークを始めます。</p>
23	<p>ふりかえりワーク</p> <p>5 全体ふりかえりと今後の対策の検討</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップを通して得た部署間連携に関する課題の抽出</li> <li>災害時の部署間連携を円滑に実施するための平常時からの対策（越境）の検討</li> </ul> <p>【進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PTごとに、「課題の抽出」「平常時からの対策（越境）」について検討</li> <li>検討の結果を基に、チームで検討した課題と対策を発表</li> </ul> <p>ホワイトボードの活用</p> 	<p><b>司会進行</b></p> <p>プロジェクトチームごとにふりかえりを行っていただきます。</p> <p>① 課題の抽出</p> <p>まず、訓練を通して得た部署間連携に関する課題を〇分程度で検討していただきます。</p> <p>② 越境のための対策</p> <p>続いて、災害時の部署間連携を円滑に実施するためには平常時からどのような対策を講じる必要があるかについて、〇分程度で検討していただきます。例えば、計画やマニュアルの〇〇部分を改定すべき、等です。</p> <p>その後、プロジェクトチームごとに検討結果を発表していただきます。各チーム〇分程度で発表をお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進行役</li> <li>・ 発表者</li> <li>・ 書記役</li> </ul> <p>を決めてください。</p> <p>記録はホワイトボードを使用してください。発表の際は、検討結果を記録したホワイトボードを全体に見せながら発表をしていただきます。</p> <p>それでは、ふりかえりワークを始めてください。</p> <p><b>進行のポイント</b></p> <p>発表者について、事前に運営側で指定しておくスムーズに進行できると思います。（例えば、プロジェクトチームの副責任者等）</p>

	<div data-bbox="555 208 724 264" data-label="Section-Header"> <p><b>司会進行</b></p> </div> <div data-bbox="555 275 1412 360" data-label="Text"> <p>それでは、時間になりましたので、これから各プロジェクトチームからの発表にうつります。</p> </div> <div data-bbox="580 371 1225 409" data-label="Text"> <p>では、まず〇〇チームから発表お願いいたします。</p> </div> <div data-bbox="737 468 1224 506" data-label="Text"> <p>(すべてのチームに発表をお願いする)</p> </div> <div data-bbox="552 564 1412 647" data-label="Text"> <p>それでは、すべてのチームから発表をいただきましたので、これにて、ふりかえりワークを終了いたします。</p> </div> <div data-bbox="555 712 804 768" data-label="Section-Header"> <p><b>進行のポイント</b></p> </div> <div data-bbox="552 784 1412 916" data-label="Text"> <p>時間があれば、発表に対する質疑をする時間を入れてもよい。質問者は、参加者全員でもよいが、時間をコントロールしやすいように本部長あるいは講評者のみに絞るという方法もある。</p> </div> <div data-bbox="552 927 1412 1059" data-label="Text"> <p>また、プロジェクトチームからのふりかえり結果を受けて、本部長あるいは上席の方に、今後の対策の方針についてコメントをもらうという方法もある。</p> </div>
--	--

## 部署間越境・連携ワークショップ

### D.ワークショップで使用する資料

推奨モデルで実施する場合に使用する資料をご用意しておりますので、適宜修正してお使いください。

#### コンテンツ

- D-1 タイムライン（参考）
- D-2 オリエンテーション資料
- D-3 実施要領
- D-4 参加者名簿
- D-5 状況付与表
- D-6 状況付与表（各部提出用）
- D-7 状況付与表（参考）
- D-8 第Y回災害対策本部会議 指示事項（配布用）
- D-9 第Y回災害対策本部会議 本部長指示事項（読み原稿）
- D-10 各プロジェクトチーム対応事案一覧表
- D-11 各プロジェクトチーム対応事案一覧表（記載例）
- D-12 各プロジェクトチーム対応事案一覧表（参考）
- D-13 各プロジェクトチームが検討する課題（参考）
- D-14 「事後アンケート」へのご協力をお願い

部署間越境・連携ワークショップ  
タイムライン(参考)

進行時間	次第	所要時間	内容	配布資料
13：00～13：05	開始	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会による開始の言葉</li> <li>本部長によるあいさつ</li> </ul>	D-2オリエンテーション資料 : 全員 D-3 実施要領 : 全員 D-4 参加者名簿 : 全員
13：05～13：20	ワークショップの説明 状況設定の説明	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会によるワークショップの説明</li> <li>司会による災害の状況設定の説明</li> </ul>	
13：20～13：40	所管する事案の選択	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会による進め方の説明</li> <li>各対策部で「状況付与表(各部提出用)」を作成させ、提出させる</li> </ul>	D-5 状況付与表 : 全員 D-6 状況付与表(各部提出用) : 各対策部
13：40～14：05	所管する事案の選択 ファイナlpバツク	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営チームは、各対策部より提出された「状況付与表(各部提出用)」を集約する</li> <li>講師者は、「状況付与表(参考)」とつき合わせ、業務の「重複」や「抜け」を確認し、講師する。</li> </ul>	D-7 状況付与表(参考) : 本部長・講師者
14：05～14：15	第Y回災害対策本部会議 (目標・対応方針・PT設置指示)	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部長、各対策部長が出席</li> <li>司会による進め方の説明</li> <li>本部長によるPT設置の指示</li> </ul>	D-8 第Y回災害対策本部会議 指示事項 : 各対策部長 D-9第Y回災害対策本部会議 本部長指示事項 : 本部長
14：15～15：15	PTによる対策等の検討	60分	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会による進め方の説明</li> <li>参加者は、4つのPTに分かれて対策等の検討を実施</li> </ul>	D-10 各PT対応事案一覧表 : 各PT D-11 各PT対応事案一覧表(記載例) : 各PT
15：15～15：25	休憩	10分		
15：25～16：05	第Z回災害対策本部会議	45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部長、各PTの主・副責任者が出席</li> <li>司会による進め方の説明</li> <li>各PT主責任者からの報告</li> <li>本部長・講師者からの質疑応答</li> </ul>	D-12 各PTが検討する課題(参考) : 本部長・講師者 D-13 各PT対応事案一覧表(参考) : 本部長・講師者
16：05～16：50	ふりかえり	45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会による進め方の説明</li> <li>各PTごとにふりかえり</li> <li>各PTごとのふりかえり結果の発表</li> </ul>	
16：50～17：00	講評・終了	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師者、本部長による講評</li> </ul>	
17：00～17：10	アンケート	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者に「事後アンケート」に協力していただく</li> </ul>	D-14 事後アンケートへのご協力のお願ひ : 参加者

令和〇年度 （自治体名）

# 部署間越境・連携ワークショップ

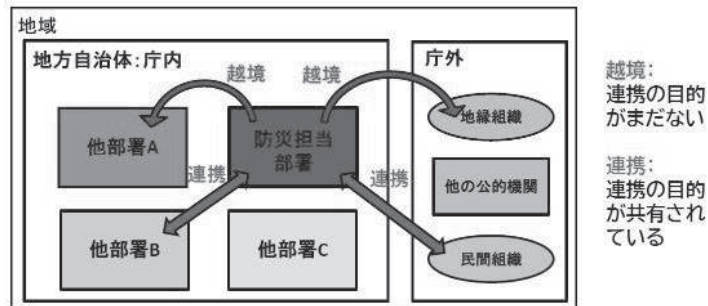
## オリエンテーション

## ワークショップの目的

- ①災害対策本部内の**役割分担**の確認
- ②災害時における**連携**の重要性の理解
- ③連携の前提となる**越境**を**平常時**から進めるための意識の醸成

# 越境とは

複数の組織または部署が、連携を行う共通の目的を持たない状態で、ある組織または部署の者が、その他の組織または部署に対して **能動的に連携に巻き込む行為**



D-2

3

## ワークショップの概要

### 境界の確認ワーク

- 1 所管する事案の選択とフィードバック

### 越境の体験ワーク

- 2 第Y回災害対策本部会議
- 3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討
- 4 第Z回災害対策本部会議

### ふりかえりワーク

- 5 全体ふりかえりと今後の対策の検討

D-2

4

# プロジェクトチーム (PT)

## 【PT設置を想定する意義】

- 部署を超えた対応の**イメージ**を持つ
- 連携した方が**効果的**な場合があることを理解する

## 【PT設置のメリット】

- 重点的に取り組む目的ごとに**柔軟**に設置・廃止が可能
- 固定的な組織（部署）では**対応できない事象**に対応可能

例) 熊本地震時、益城町はPTを設置して災害対応を実施

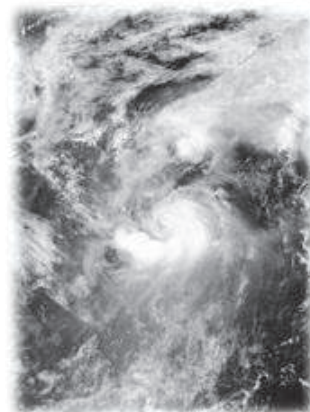
- a) 避難所対策：避難所の環境改善（衛生面・医療面）、避難所の集約
- b) 住まい支援：仮設住宅のニーズ把握、場所選定
- c) 被害認定・罹災証明：家屋被害認定調査の実施、罹災証明書発行の体制整備・計画
- d) 役場再建：執務環境の確保

D-2

5

# 災害の設定（水害編）

- 災害発生日時  
令和X年〇月〇日（〇）〇時〇分
- 災害名  
令和X年〇〇災害
- 災害規模  
24時雨量 〇〇mm  
河川氾濫・浸水被害が多数発生
- 現在時間  
令和X年〇月〇日（〇）〇時〇分  
※災害発生から4日目の想定  
浸水した水の排水は完了



ワークショップのために設定した仮想の災害です。

6

## 災害の設定（地震編）

- 災害発生日時  
令和X年〇月〇日（〇）〇時〇分
- 災害名  
令和X年〇〇災害
- 災害規模  
マグニチュード7.3  
震度7
- 現在時間  
令和X年〇月〇日（〇）〇時〇分

凡例  
★ 震源地



防災科学技術研究所：  
地震ハザードステーション（J-SHIS MAP）より作成

※災害発生から4日目の想定

今後1か月程度は震度6強前後  
の余震発生の恐れがあり、**厳重**  
な警戒が必要

ワークショップのために設定した仮定の災害です。

7

## 発災から4日目

- 被災地から情報が集まり、**状況把握**ができる時期
- 人命救助から**生活支援**に重点が移りつつある時期



- ▶ 一週間先までの課題を予測する
- ▶ 先回りして対策を打つ

1日目 2日目 3日目 4日目 5日目 6日目 7日目 8日目 9日目 10日目

発災

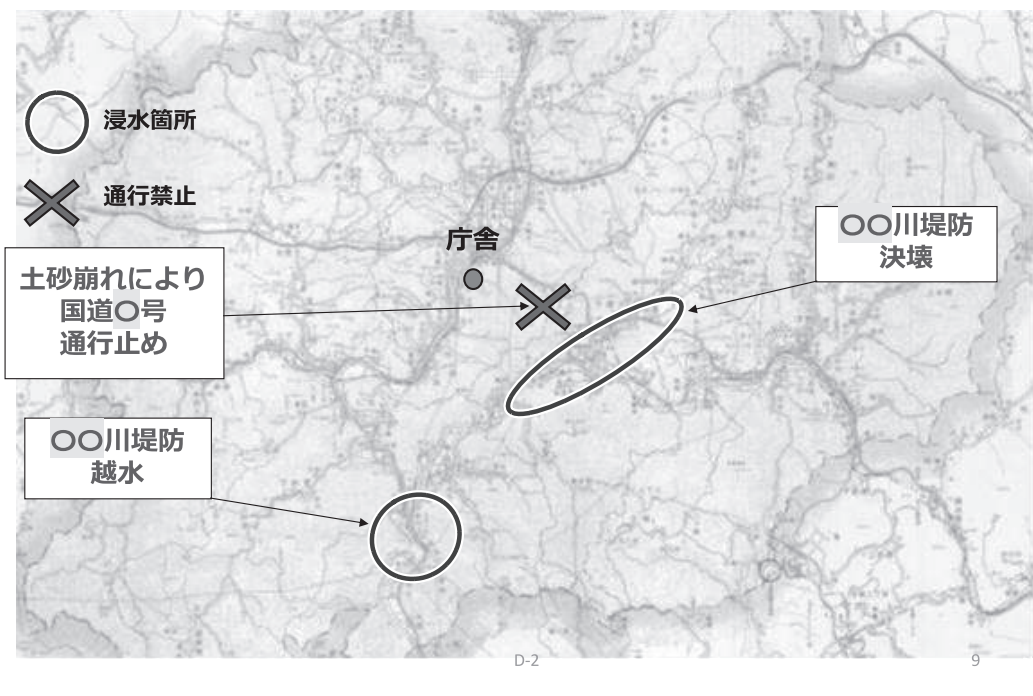
本日

D-2

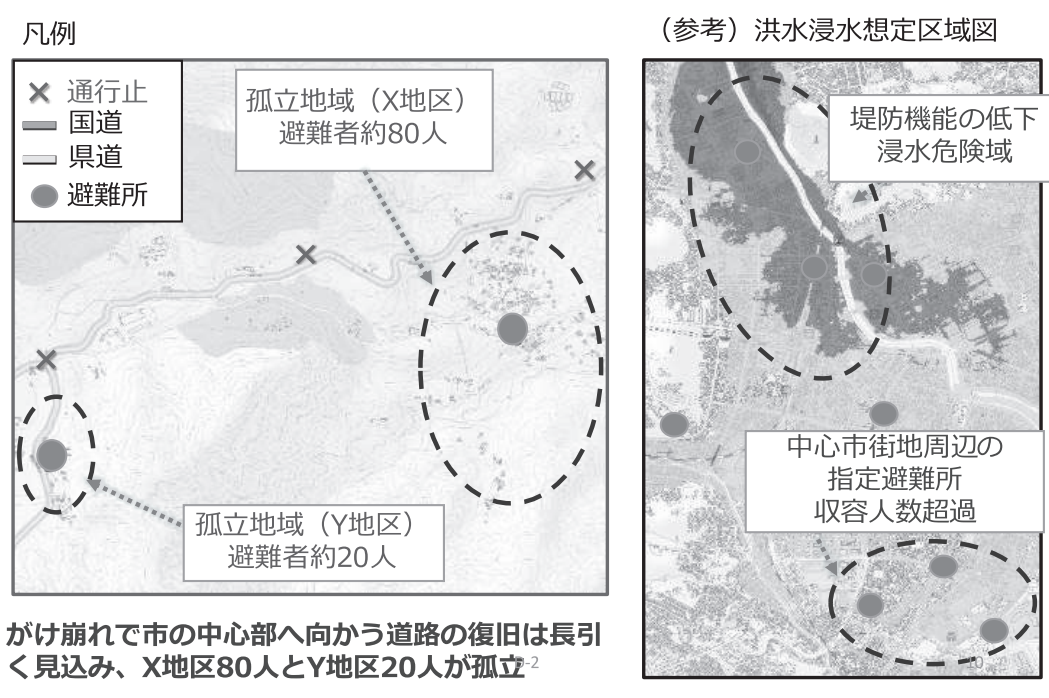
8



# 被災状況図（水害編）









# 被災状況図（地震編）



# 気象情報

(自治体名)		降水確率	気温予報	
今日	〇日 (〇)	 晴れ	10%	最高気温 33℃ 最低気温 26℃
明日	〇日 (〇)	 晴れ後曇り	30%	最高気温 32℃ 最低気温 28℃

## ● 週間天気予報

	〇日 (〇)	〇日 (〇)	〇日 (〇)	〇日 (〇)	〇日 (〇)	〇日 (〇)
天気	 雨	 雨	 雨後曇り	 曇り後晴れ	 晴れ	 晴れ
降水確率	90%	80%	60%	30%	10%	10%
最高気温	29℃	28℃	31℃	33℃	35℃	34℃
最低気温	23℃	22℃	25℃	26℃	26℃	27℃

# 被害状況①

## ● 人的被害

- 死者 18名 行方不明 2名
- 負傷者数 100人以上 重傷者 10人

## ● 建物被害

- 家屋被害  
全半壊 50戸以上 (詳細は未確認)  
床上浸水 500戸以上 (詳細は未確認)

## ● 交通施設の被害状況

- 主要道路は一部冠水し、通行止め箇所が発生
- バス・電車などの公共交通機関は運行停止中 (再開時期未定)

## ● 河川・堤防の被害状況

- 〇〇川の堤防決壊および越水による浸水被害が発生
- 堤防の緊急復旧工事が進められているが、復旧完了は未定

## 被害状況②

### ● ライフライン被害

- 電気は一部地域で停電が発生しており、翌日には復旧する見通
- 水道施設の被害により一部地域で断水が発生、復旧は未定
- 電話は、固定電話・携帯電話ともつながりにくい状態
- ガスは支障なし

### ● 医療・福祉サービスの状況

- 一部の病院・診療所も浸水被害があり、慢性疾患等の通常診察に支障が発生

### ● 新型コロナウイルス感染症の状況

- 現在、自治体内での新規感染者数は5～10名程度で継続して発生、県内や近隣県においても同様

D-2

13

## 避難者の状況・対応①

### ● 避難者の状況

- 現在、自治体内の〇ヶ所の指定避難所のうち〇ヶ所が開設中
- 指定・自主避難所に現在〇人以上が避難中
- 一部の指定避難所に避難者が集中しており、収容率120%を超える避難所が発生
- 指定避難所ではない公共施設や被災した自宅内外、自家用車内などにも多数の避難者がいるが、総数の把握まだ

### ● 災害時要配慮者への対応

- 福祉施設〇ヶ所が福祉避難所として開設
- 支援物資（食料等）は配送されつつあるが、災害時要配慮者のためのベッドが不足

D-2

14

## 避難者の状況・対応②

### ● 避難所の環境

- 多くの指定避難所で住民は雑魚寝
- 仮設トイレは事前計画数を設置したが、避難者に比べて不足
- 土砂災害警戒区域に含まれる指定避難所があり、今後の雨による土砂災害の危険を住民が不安

### ● 食料・物資等の配布状況

- 支援物資（食料品等）は、指定・福祉避難所へ円滑に配送
- 指定・福祉避難所への食糧は十分な量が配送されているが、おにぎりの他に菓子パン、カップラーメンの配給のみ

### ● ボランティアセンター等の開設状況

- 社会福祉協議会によりボランティアセンター開設済、県内に限って募集

D-2

15

## 自治体の対応状況

### ● 庁舎・職員の状況

- 庁舎は昨日からライフライン復旧済みで、建物被害はない
- 職員の安否は確認済みで、参集率は〇割程度
- 災害発生直後から全職員が不眠不休で対応に当たっており、疲労により体調を崩す職員あり
- 指定避難所に職員が配置されているが疲労あり

### ● 住民の安否確認の状況

- 自治会等を通じて安否確認を実施中でありほぼ終了

### ● 医療・福祉サービスの状況

- 指定避難所に保健師、救護班の派遣や巡回が行われているが、人員が足りず、指定避難所の巡回のみ

D-2

16

## 国・県の対応状況

- 国
  - 災害翌日（○日） 内閣府連絡員を県に派遣、TEC-FORCE現地入り
- 県
  - 災害当日（○日） 県災害対策本部を設置  
自衛隊派遣要請・緊急消防援助隊派遣要請・DMATの派遣要請
  - 災害翌日（○日） 応急復旧要員派遣（土木・建築）、  
災害救助法適用発表、保健師等専門家支援調整実施
- 自衛隊・緊急消防援助隊、医療支援チーム
  - 災害派遣済、人命救助、給水支援、水防活動、道路啓開、物資輸送を中心に活動中
  - 日本赤十字、DMATと連携し、災害当日より医療・救護活動を実施中

D-2

17

## ワークショップの概要

### 境界の確認ワーク

#### 1 所管する事案の選択とフィードバック

### 越境の体験ワーク

#### 2 第Y回災害対策本部会議

#### 3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討

#### 4 第Z回災害対策本部会議

### ふりかえりワーク

#### 5 全体ふりかえりと今後の対策の検討

D-2

18

## 境界の確認ワーク

# 1 所管する事案の選択とフィードバック

### 【目的】

各災害対策部の役割の**再確認**と**認識の齟齬の解消**

### 【進め方】

- ①対策部が**主として対応すべき事案**は◎、  
主ではないが**関係して対応する必要のある事案**は○、  
「状況付与表」の右側の担当部の縦欄に記入
- ②各対策部で清書したものを1部提出、集約
- ③集約した表により部署間の認識の齟齬を確認、解消

状況付与表（例）

付与 番号	想定付与事案	担当部							
		総務	総務	地産	生活	教育	医療 健康	建設 農林	上下 水道
1	避難所が雑魚寝状態でプライバシーも確保できないと苦情がある。				○				
2	仮設トイレが不足しているとの苦情がある。				○				
3	床下の泥かきを手伝ってほしいとの声が多く寄せられている。				○				
4	避難所に配置されている職員が疲弊状態となっている。							19	

## ワークショップの概要

### 境界の確認ワーク

# 1 所管する事案の選択とフィードバック

### 越境の体験ワーク

# 2 第Y回災害対策本部会議

# 3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討

# 4 第Z回災害対策本部会議

### ふりかえりワーク

# 5 全体ふりかえりと今後の対策の検討

越境の体験ワーク

## 2 第Y回災害対策本部会議

【目的】

災害対応を迅速に実施するため、本部長より指示

目標：

今後 1 週間以内に被災者が安心し、  
安全な環境で生活できるようにする

対応方針：

- ① 二次災害の防止・インフラの早期復旧
- ② 被災者の生活環境改善
- ③ 要配慮者・保健衛生・感染症対策
- ④ 生活再建支援体制の構築

21

## プロジェクトチーム（PT）の設置

PT名	責任者 (主責任者、副責任者)	関係対策部
① 二次災害防災・ インフラ復旧PT	主：建設農林対策部長 副：上下水道対策部長	統括部 総務対策部 地域対策部 教育対策部
② 生活環境改善PT	主：生活対策部長 副：教育対策部長	統括部 総務対策部 地域対策部 建設農林対策部
③ 要配慮者・ 保健衛生等対策PT	主：医療健康対策部長 副：地域対策部長	統括部 生活対策部 教育対策部
④ 生活再建支援PT	主：総務対策部長 副：統括部長	生活対策部 医療健康対策部 建設農林対策部

D-2

22

# ワークショップの概要

## 境界の確認ワーク

1 所管する事案の選択とフィードバック

## 越境の体験ワーク

2 第Y回災害対策本部会議

3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討

4 第Z回災害対策本部会議

## ふりかえりワーク

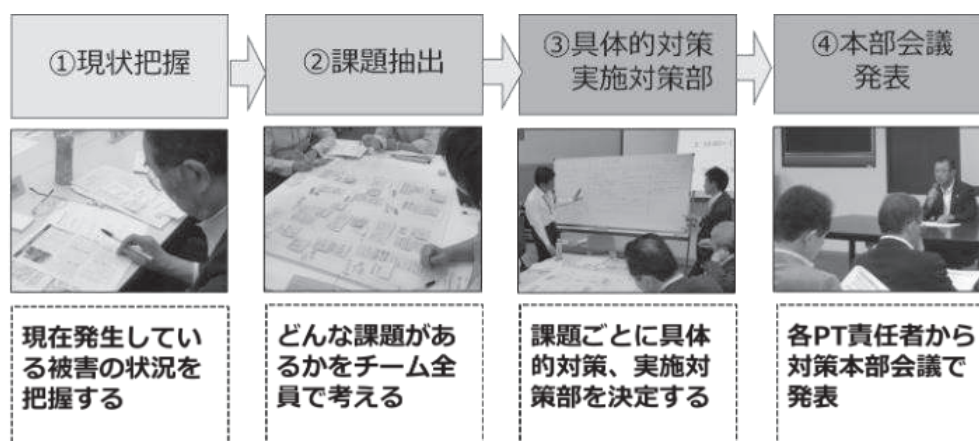
5 全体ふりかえりと今後の対策の検討

D-2

23

## 越境の体験ワーク

3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討



D-2

24



## ①現状の把握

### 【目的】

現在、被災者・被災社会は、どのような困難に直面しているのか、正しく把握する

### 【進め方】

「災害の設定」資料、  
「状況付与表」資料をもとに把握

※すでに把握している



D-2

25

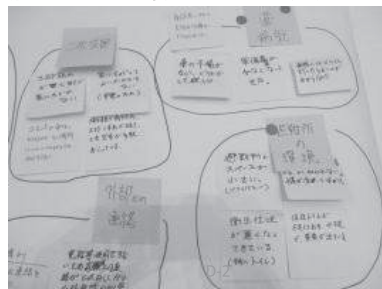
## ②課題の抽出

### 【目的】

被災者の生活や被災地の状況から、  
今後1週間以内に、**PTで検討すべき課題**を決定する

### 【進め方】

- どのような課題があるか、1人5つ程度考え、付箋に記入する  
※ 1つの付箋に1つの課題を簡潔に記入
- 1人ずつ付箋を発表し、模造紙に貼付し、整理する
- PTで優先して検討すべき課題を3つ決定する



26

### ③ 具体的対策と実施対策部の決定

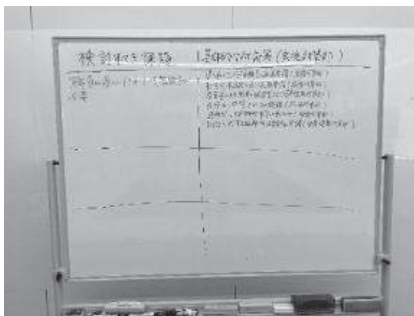
#### 【目的】

- ・ 各課題を解決するための **具体的対策** の決定
- ・ 具体的対策を実施する **対策部** の決定

#### 【進め方】

ホワイトボードを活用

検討結果を「各PT対応事案一覧表」へ記載



プロジェクトチーム名	対応事案	実施部
1		
2		
3		

## ワークショップの概要

### 境界の確認ワーク

#### 1 所管する事案の選択とフィードバック

### 越境の体験ワーク

#### 2 第Y回災害対策本部会議

#### 3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討

#### 4 第Z回災害対策本部会議

### ふりかえりワーク

#### 5 全体ふりかえりと今後の対策の検討

### 越境の体験ワーク

## 4 第Z回災害対策本部会議

#### 【目的】

各PT責任者から、PTで検討すべき課題・課題解決に向けた**具体的対策・実施対策部**を発表

#### 【進め方】

各PT主責任者からの報告の後、本部長や講評者からの質疑応答



D-2

29

## ワークショップの概要

### 境界の確認ワーク

#### 1 所管する事案の選択とフィードバック

### 越境の体験ワーク

#### 2 第Y回災害対策本部会議

#### 3 プロジェクトチーム（PT）での対策等の検討

#### 4 第Z回災害対策本部会議

### ふりかえりワーク

#### 5 全体ふりかえりと今後の対策の検討

D-2

30

## ふりかえりワーク

### 5 全体ふりかえりと今後の対策の検討

#### 【目的】

- ・ ワークショップを通して得た部署間連携に関する**課題**の抽出
- ・ 災害時の部署間連携を円滑に実施するための  
平常時からの**対策（越境）**の検討

#### 【進め方】

- ・ PTごとに、「課題の抽出」、「平常時からの対策（越境）」について検討
- ・ 各PTの副責任者から、チームで検討した課題と対策を発表

ホワイトボードの活用



## 部署間越境・連携ワークショップ 実施要領

### 1 目的

災害対策本部内の役割分担を確認するとともに、災害時における連携の重要性を理解し、円滑な災害時連携の前提となる越境を平常時からどのように進めていくかを意識するため、各対策部の責任者及び班長を対象として部署間越境・連携ワークショップ及びふりかえりを実施する。

### 2 日時

令和 年 月 日 ( ) 13時00分～17時00分

### 3 場所

### 4 参加者

災害対策本部各部長及び各対策部各班から 名 合計約 名

### 5 ワークショップの進め方

13:00～13:05 開始の言葉

13:05～13:20 ワークショップの説明および状況設定の説明

#### 13:20～14:05 境界の確認ワーク

13:20～13:40 所管する事案の選択

13:40～14:05 所管する事案の選択・フィードバック

#### 14:05～16:05 越境の体験ワーク

14:05～14:15 第Y回災害対策本部会議（目標・対応方針、PT設置指示）

14:15～15:15 プロジェクトチーム（PT）による対策等の検討

15:15～15:25 休憩

15:25～16:05 第Z回災害対策本部会議の実施（各PTからの報告）

#### 16:05～16:50 ふりかえりワーク

16:05～16:50 全体ふりかえりと今後の対策の検討（各PTでの検討・発表）

16:50～17:00 講評・終了

## 部署間越境・連携ワークショップ 参加者名簿

開催日： 年 月 日

番号	災害対策部	災害対策班	役職クラス	氏名	備考
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					



## 状況付与表（各部提出用）

付与 番号	想定付与事案	担当部						
		統括	総務	地域	生活	教育	医療 健康	建設 農林
1	南光小避難者の中に在宅医療を行っている高齢者がおり、至急の移送依頼の要請がある。							
2	久崎避難所でペットについて住民同士がもめている。							
3	兵庫県から必要な応援職員の人数を至急出すように電話がかかっている。							
4	県外の医療団体等20名が活動拠点として会議室の提供を求めている。							
5	各避難所から仮設トイレを男女別にしてほしいとの声が殺到している。							
6	避難者から、お風呂かシャワーを利用したいという声が上がっている。							
7	町内の福祉施設から、入所者を外部の施設に移送したいとの相談が持ちかけられた。							
8	寝たきりの人を家族が避難所に連れてきたので医療に詳しい人を手配してほしいと現場の職員が求めている。							
9	久崎避難所の避難者が今後の雨で浸水しないか心配している。							
10	豊岡市から必要な支援や内容を教えて欲しい、との連絡が来ている。							
11	南光小避難所に物資を持ってきた人が、不要な物資を断ったところ、ここの責任者は誰なのかと怒鳴っている。							
12	災害ゴミが、すでに街のいたる所に出されたままの状態になっており、ゴミの山となっている。							
13	災害対策本部会議を中で取材してもいいのかと記者が迫っている。							
14	避難所用の段ボールベッドやパーテーションが100セット送られてきたが、数が足りない。							
15	破堤した川の近くの住民が、早く復旧してほしいと言っている。							
16	上月小避難所で、避難者が職員に早く仮設住宅を用意しろと詰め寄っている。							
17	報道機関から、定期的な記者会見を強く要望されている。							
18	避難者からプライバシーがないと苦情がある。							
19	家畜の飲料水がないから給水車を出して欲しいとの連絡があった。							
20	タブレットを30台貸与できるが必要かという電話が企業からあった。							
21	各指定避難所にはエアコンがないため、熱中症の症状を訴える避難者が続出している。							
22	久崎避難所に配食されたおにぎりが臭いを放っているが食べても大丈夫なのかと職員が困惑している。							
23	田んぼに流入した土砂を撤去してほしいと連絡が入った。							
24	自宅に戻ると盗難にあっているとの声が役場にも寄せられている。							
25	浸水家屋でボランティアに従事していた中学生がケガをした。							
26	久崎避難所に子どもと避難していた妊婦が陣痛らしい症状を呈している。							
27	仮設トイレのし尿が満杯になっているので処理して欲しいとの声が上がっている。							
28	医療用の水が確保できないので、至急に回して欲しいとのA病院からの要請がある。							
29	20万円の義援金をもった団体代表が、領収書を求めている。							
30	ため池の土手の一部がもろくなっている。水がもれないか心配との声がある。							
31	家屋の調査と称して、高額な料金を求められたとの苦情が数件寄せられている。							
32	官房長官がテレビで今月中に罹災証明の発行を済ませると言っている。							
33	役場本庁舎に救援物資が届いているが、避難所のニーズと物資にズレが出ており根在庫が増えている。							
34	兵庫県から明後日に防災担当大臣が被災地視察に来るといった情報が入った。							
35	大阪からボランティアに来たが、受け入れが兵庫県内だけだと断られたという苦情があった。							
36	被災者から、どんな支援が受けられるのか一元的に相談・申請できるようにしてほしいとの声があった。							
37	NPOや地域団体から避難所で炊き出しをしたいという申し出が数件ある。							
38	2階が住居で1階の店舗が浸水被害を受けた人から何か支援は受けられないか相談があった。							
39	南光小避難所に今朝から発熱、咳症状のある避難者が数名いると連絡が入った。							
40	おにぎりやパン、カップ麺だけでは栄養が偏っていると避難者から苦情がある。							



## 状況付与表（参考）

付与番号	想定付与事案	担当部							
		統括	総務	地域	生活	教育	医療健康	建設農林	上下水道
1	南光小避難者の中に在宅医療を行っている高齢者がおり、至急の移送依頼の要請がある。	○					◎		
2	久崎避難所でペットについて住民同士がもめている。	◎				○			
3	兵庫県から必要な応援職員の人数を至急出すように電話がかかっている。	○	◎	○	○	○	○	○	
4	県外の医療団体等20名が活動拠点として会議室の提供を求めている。		◎				○		
5	各避難所から仮設トイレを男女別にしてほしいとの声が殺到している。				◎	○			
6	避難者から、お風呂かシャワーを利用したいという声が上がっている。		○		◎	○			
7	町内の福祉施設から、入所者を外部の施設に移送したいとの相談が持ちかけられた。						◎		
8	喪たきりの人を家族が避難所に連れてきたので医療に詳しい人を手配してほしいと現場の職員が求めている。						◎		
9	久崎避難所の避難者が今後の雨で浸水しないか心配している。	○	○	○		◎		○	
10	豊岡市から必要な支援や内容を教えて欲しい、との連絡が来ている。	◎	○	○	○	○	○	○	
11	南光小避難所に物資を持ってきた人が、不要な物資を断つたところ、ここの責任者は誰なのかと怒鳴っている。				◎	○			
12	災害ゴミが、すでに街のいたる所に出されたままの状態になっており、ゴミの山となっている。	○	○	○	◎			○	
13	災害対策本部会議中で取材してもいいのかと記者が迫っている。	◎							
14	避難所用の段ボールベッドやパーテーションが100セット送られてきたが、数が足りない。				◎	○			
15	破壊した川の近くの住民が、早く復旧してほしいと言っている。	○	○	○		○		◎	
16	上月小避難所で、避難者が職員に早く仮設住宅を用意しろと詰め寄っている。				◎	○			
17	報道機関から、定期的な記者会見を強く要望されている。	◎							
18	避難者からプライバシーがないと苦情がある。				◎	○			
19	家畜の飲料水がないから給水車を出して欲しいとの連絡があった。							◎	
20	タブレットを30台貸与できる必要があるという電話が企業からあった。				◎	○			
21	各指定避難所にはエアコンがないため、熱中症の症状を訴える避難者が続出している。		◎		○				
22	久崎避難所に配食されたおにぎりが異臭を放っているが食べても大丈夫なのかと職員が困惑している。	○			○	○	◎		
23	田んぼに流入した土砂を撤去してほしいと連絡が入った。							◎	
24	自宅に戻ると盗難にあっているとの声が役場にも寄せられている。		◎	○					
25	浸水家屋でボランティアに従事していた中学生がケガをした。						◎		
26	久崎避難所に子どもと避難していた妊婦が陣痛らしい症状を呈している。					○	◎		
27	仮設トイレのし尿が満杯になっているので処理してほしいとの声が上がっている。				◎	○			
28	医療用の水が確保できないので、至急に回してほしいとのA病院からの要請がある。							◎	
29	20万円の義援金をもった団体代表が、領収書を求めている。	○	◎						
30	ため池の土手の一部がもろくなっている。水がもれないか心配との声がある。							◎	
31	家屋の調査と称して、高額な料金を求められたとの苦情が数件寄せられている。	○		○	◎				
32	官房長官がテレビで今月中に罹災証明の発行を済ませせと言っている。	○	◎						
33	役場本庁舎に救援物資が届いているが、避難所のニーズと物資にズレが出ており根在庫が増えている。	○			◎	○			
34	兵庫県から明後日に防災担当大臣が被災地視察に来るといった情報が入った。		◎						
35	大阪からボランティアに来たが、受け入れが兵庫県内だけだとして断られたという苦情があった。	◎							
36	被災者から、どんな支援が受けられるのか一元的に相談・申請できるようにしてほしいとの声があった。	◎	○		○	○	○	○	
37	NPOや地域団体から避難所で炊き出しをしたいという申し出が数件ある。	○				◎			
38	2階が住居で1階の店舗が浸水被害を受けた人から何か支援は受けられないか相談があった。	◎							
39	南光小避難所に今朝から発熱、咳症状のある避難者が数名いると連絡が入った。					○	◎		
40	おにぎりやパン、カップ麺だけでは栄養が偏っていると避難者から苦情がある。	○			○	○	◎		

(注)◎○は左用町地域防災計画をもとに人防が記載したものである。

## 第 Y 回災害対策本部会議 指示事項

### ●目標

今後 1 週間以内に自宅や避難所で暮らす被災者が安心し、安全な環境で生活できるようにする。

### ●対応方針

- ①二次災害の防止対策を講じるとともにインフラの早期復旧を図る(二次災害防止は 2 日後まで、インフラ復旧は 1 週間後まで)
- ②被災者の生活環境を改善する(1 週間後まで)
- ③要配慮者対策及び保健衛生・感染症対策を講じる(1 週間後まで)
- ④生活再建支援の体制と段取りを整える(1 週間後まで)

### ●プロジェクトチームの設置

上記の対応方針に基づく対策を迅速に検討・実施するため、関係対策部員で構成する 4 つのプロジェクトチーム(P T)を設置する。

各 P T の主な検討課題は、以下のとおりである。

#### ①二次災害防止・インフラ復旧 P T

(主責任者：建設農林対策部長、副責任者：上下水道対策部長)  
(関係対策部：統括部、総務対策部、地域対策部、教育対策部)

#### ②生活環境改善 P T

(主責任者：生活対策部長、副責任者：教育対策部長)  
(関係対策部：統括部、総務対策部、地域対策部、建設農林対策部)

#### ③要配慮者・保健衛生等対策 P T

(主責任者：医療健康対策部長、副責任者：地域対策部長)  
(関係対策部：統括部、生活対策部、教育対策部)

#### ④生活再建支援 P T

(主責任者：総務対策部長、副責任者：統括部長)  
(関係対策部：生活対策部、医療健康対策部、建設農林対策部)

## 第 Y 回災害対策本部会議 本部長指示事項

災害発生から 4 日目となり、災害対応も人命救助から被災者の生活支援へと移行する時期にきています。このため、今後 1 週間以内の目標を、「自宅や避難所で暮らす被災者が安心して、安全な環境で生活できるようにする」とこととします。

この目標を達成させるための対応方針として、次の 4 つの項目について早急に取り組んでください。

一つ目は、明後日からまた雨が予測されているので、早急に二次災害の防止対策を行うとともに、浸水の恐れのある地域に住む住民の早期避難に努めてください。また、住民の生活基盤である道路や水道等インフラの早期復旧に取り組んでください。

二つ目は、避難所や在宅で生活する被災者について、避難所の暑さ対策等の環境改善や街中のゴミ対策など安全で安心して生活できるよう取り組んでください。また、早期に仮住まいに移行するための準備を進めてください。

三つ目は、避難所や在宅で生活する被災者への衛生対策や新型コロナ等の感染症対策、医療・保健対策などに努めてください。特に、要配慮者への生活支援に取り組んでください。

四つ目は、被災者の一日でも早い生活再建を支援するため、その根拠となる罹災証明の早期発行はもとより、被災者の皆さんへの各種支援制度の周知など被災者の利便性に配慮した取り組みを実施してください。

これらの対策を迅速に検討し実施するため、4 つのプロジェクトチームを設置することとします。

それぞれのプロジェクトチームの構成は資料のとおりですので、この会議終了次第速やかにプロジェクトチームを立ち上げ、対策の検討を行い、次回の本部会議で報告してください。よろしくをお願いします。

### 各プロジェクトチーム対応事案一覧表

プロジェクトチーム名：

	検討すべき課題	具体的な対応策（実施対策部）
1		
2		
3		

## 各プロジェクトチーム対応事案一覧表（記載例）

プロジェクトチーム名：0000

	検討すべき課題	具体的な対応策（実施対策部）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定避難所に配置している職員を含め、役場の全職員が不眠不休で対応に当たっており、疲労により体調を崩す職員が出ていることから、職員の健康管理を徹底するとともに、応援職員など代替職員を確保する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県を通じた応援職員の派遣要請（総務対策部）</li> <li>相互応援協定に基づく応援職員の派遣要請（総務対策部）</li> <li>産業医による職員の健康管理（医療健康対策部）</li> <li>役場内の休職スペースの確保（総務対策部）</li> <li>避難者による避難所運営の呼びかけ（教育対策部）</li> <li>NP01による避難所の運営支援要請（医療健康対策部）</li> </ul>
2		
3		

## 各プロジェクトチーム対応事業一覧表（参考）

## プロジェクトチーム名：生活環境改善

	検討すべき課題	具体的な対応策（実施対策部）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所でのトイレバジャー確保（間仕切り等の設置）</li> <li>・女性のための更衣室等の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールボックス、間仕切り用段ボール確保のための県への要請（生活対策部）</li> <li>・各避難所での間仕切りトイレボックスの検討・作成（教育対策部）</li> <li>・間仕切りの設置（生活対策部、教育対策部）</li> <li>・女性用更衣室のためのスペースの確保（教育対策部）</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の熱さ対策（エアコン、扇風機等の設置）</li> <li>・避難所の衛生対策（仮設トイレの処理、仮設風呂等の設置）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコン、扇風機設置のための県への要請（総務対策部）</li> <li>・救護物資の要請（生活対策部）</li> <li>・仮設トイレのし尿処理・業者手配（生活対策部）</li> <li>・使用不可トイレの表示、避難者への周知（教育対策部）</li> <li>・県を通じた自衛隊への仮設風呂設置要請（総務対策部）</li> <li>・風呂設置場所の検討（生活対策部、教育対策部）</li> <li>・近隣のゴルフ場等入浴施設への無料開放要請（生活対策部）</li> <li>・企業へのシャワー設置支援要請（生活対策部）</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害ゴミの置き場への早期移動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害ゴミの置き場の確保（生活対策部）</li> <li>・置き場への搬入ルールの検討（生活対策部）</li> <li>・搬入ルールの町民への周知（総括部、地域対策部）</li> <li>・搬出手段の確保（自衛隊、他市町への応援要請（総務対策部）、建設業協会への応援要請（建設農林対策部））</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応急仮設住宅の早期建設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅のニーズ調査（教育対策部）</li> <li>・仮設住宅用地の確保、県との調整（生活対策部）</li> <li>・公営住宅の確保、県との調整（生活対策部）</li> <li>・民間賃貸住宅の確保（生活対策部）</li> </ul>

## 各プロジェクトチーム対応事案一覧表（参考）

## プロジェクトチーム名：二次災害防止・インフラ復旧

	検討すべき課題	具体的な対応策（実施対策部）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2日後までに破堤箇所への復旧</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県管理河川について、早期の復旧を要請（建設農林対策部）</li> <li>・町管理河川について、早期の復旧を業者へ手配（建設農林対策部）</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破堤箇所周辺の住民の避難</li> <li>・浸水想定エリア内の避難所にいる避難者の安全な避難所への移動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難地域の検討（統括部、建設農林対策部）</li> <li>・近隣住民への情報周知（統括部）</li> <li>・新たな避難所の開設（教育対策部）</li> <li>・新たな避難所への移動手段の確保（総務対策部）</li> <li>・住民への避難の呼びかけ（地域対策部）</li> <li>・避難情報の発出（統括部）</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道施設の早期復旧</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道施設の早期復旧（上下水道対策部）</li> <li>・給水車の手配（自衛隊（総務対策部）、水道協定（上下水道対策部））</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活道路の早期復旧</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の早期復旧（建設農林対策部）</li> </ul>

## 各プロジェクトチーム対応事業一覧表（参考）

## プロジェクトチーム名：要配慮者・保健衛生等対策

検討すべき課題		具体的な対応策（実施対策部）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養士による指導</li> <li>災害救助法特別基準の要請</li> <li>避難所食料の調達方法の検討</li> <li>保健師による相談体制の構築</li> <li>避難所での食中毒対策</li> <li>避難所での感染症対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養士による巡回指導（医療健康対策部、教育対策部、地域対策部）</li> <li>災害救助法特別基準の県との協議（統括部）</li> <li>栄養の偏りをなくす食料の調達（生活対策部）</li> <li>健康対策</li> <li>保健師による巡回相談（医療健康対策部、地域対策部）</li> <li>食中毒対策</li> <li>避難所での配食ルールの作成・徹底（医療健康対策部）</li> <li>炊き出しルールの作成・徹底（医療健康対策部）</li> <li>ルールの周知（統括部）</li> <li>保冷車の確保（生活対策部）</li> <li>感染症対策</li> <li>避難所での風邪症状者用スペースの確保（教育対策部）</li> <li>医師の派遣、検査の実施（医療健康対策部）</li> <li>新型コロナウイルス療養者施設への移送（医療健康対策部）</li> </ul>
2		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>要配慮者対策</li> <li>妊産婦対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要援護者向けスペースの確保（教育対策部）</li> <li>妊婦対応</li> <li>医師、助産師の派遣（医療健康対策部）</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>要配慮者の実態把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要配慮者の実態把握（ローラー作戦）（医療健康対策部、避難所（教育対策部）、在宅（地域対策部））</li> </ul>



## 各プロジェクトチーム対応事業一覧表（参考）

## プロジェクトチーム名：生活再建支援

	検討すべき課題	具体的な対応策（実施対策部）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住家の被害認定の早期着手</li> <li>・迅速な罹災証明の発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者支援システムの構築（総務対策部）</li> <li>・家屋被害調査体制の構築</li> <li>・執務スペースの確保（総務対策部）</li> <li>・必要機材の調達（生活対策部）</li> <li>・調査応援職員の確保（総務対策部）</li> <li>・罹災証明発行体制の構築</li> <li>・発行応援職員の確保（総務対策部）</li> <li>・発行スペースの確保（総務対策部）</li> <li>・家屋被害調査、罹災証明発行の町民への周知（統括部）</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種支援制度の早期の運用開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義援金の募集・支給（総務対策部）</li> <li>・被災者生活再建支援金、フェニックス共済の認定・支給（統括部）</li> <li>・災害弔慰金・見舞金、災害援護資金の支給（医療健康対策部）</li> <li>・農業共済金の支給（建設農林対策部）</li> <li>・住宅の応急修理（生活対策部）</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンストップの相談及び申請窓口の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンストップ窓口の開設</li> <li>・仕組みの企画（総務対策部）</li> <li>・スペースの確保（総務対策部）</li> <li>・開設の周知（統括部）</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援制度の町民への周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者自練の制度一覧表の作成（総務対策部）</li> <li>・広報誌による町民への周知（統括部）</li> </ul>

## 各プロジェクトチームが検討する課題（参考）

### 1 二次災害防止・インフラ復旧 P T

（主責任者：建設農林対策部長、副責任者：上下水道対策部長）

（関係対策部：統括部、総務対策部、地域対策部、教育対策部）

- 2日後に大雨が予報されており、破堤箇所等の仮復旧を早期に行う必要がある。
- 最悪を想定して、破堤箇所近辺の住民への避難の呼びかけや浸水の恐れのある避難所の避難者を安全な避難所に移動させる必要がある。
- 飲料水の確保はもとより、浸水した家を片付けるにも水は必要であり、水道施設の早急な復旧が必要である。
- 生活道路を早期に復旧させる必要がある。

### 2 生活環境改善 P T

（主責任者：生活対策部長、副責任者：教育対策部長）

（関係対策部：統括部、総務対策部、地域対策部、建設農林対策部）

- 多くの避難所が雑魚寝状態であり、プライバシーが確保されていない状況で改善の必要がある。
- 長期にわたる避難生活が予想されることから、避難所の暑さ対策(エアコン、扇風機等)や衛生対策(仮設トイレ、風呂)が必要である。
- 街中に災害ゴミがあふれており、衛生面からも早急に仮置場を確保し、移動させる必要がある。
- 厳しい避難所生活から早期に仮住まいに移行するため、応急仮設住宅を早期に確保する必要がある。

### 3 要配慮者・保健衛生等対策 P T

（主責任者：医療健康対策部長、副責任者：地域対策部長）

（関係対策部：統括部、生活対策部、教育対策部）

- 避難所の食事が偏っており、栄養状態が懸念されることから、栄養士の指導のもと、改善する必要がある。
- 被災者の保健対策(巡回相談)、衛生対策(食中毒)、医療対策(新型コロナ等感染症)が必要である。
- 災害時要配慮者のためのベッドの設置など、避難所における要配慮者のための設備の充実や特別な配慮が必要である。
- 避難所における要援護状態に移行した避難者の把握をはじめ、在宅を含めた要配慮者の健康状態や福祉ニーズの把握が必要である。

## 4 生活再建支援PT

(主責任者：総務対策部長、副責任者：統括部長)

(関係対策部：生活対策部、医療健康対策部、建設農林対策部)

- 町民の生活再建のため、家屋被害認定を早期に着手するとともに、それに基づく罹災証明を発行する必要がある。
- 義援金の募集、各種支援金・見舞金等の支給や住宅の応急修理等の施策を早急に実施する必要がある。
- 町民の利便性の確保のため、各種相談や申請が1か所で集中してできるワンストップ窓口を開設する必要がある。
- 各種生活再建支援制度の町民への周知を図るため、広報誌などでわかりやすく発信する必要がある。

## 部署間越境・連携ワークショップ 「事後アンケート」へのご協力をお願い

本日は「部署間越境・連携ワークショップ」にご参加いただきまして、ありがとうございました。本ワークショップの改善のために、事後アンケートへのご協力をお願いします。以下の各設問を読んで、あなたご自身にあてはまる選択肢の番号に1つ「」をつけて下さい。

PT名： \_\_\_\_\_ PT 所属： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

### ■ ワークショップ内容について

1. ワークショップの構成・時間 [ワークショップの单元ごとに回答をお願いします。]

(1) 所管する事案の選択 (状況付与表の想定付与事案の中から所管事案を選択する作業)

	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1) 所管事案を選択する 訓練設定	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2) 事案の内容	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
3) 事案の数	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
4) 作業時間	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
5) 自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

(2) 第Y回災害対策本部会議 (目標・対応方針、プロジェクトチーム (PT) 設置指示)

	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1) PT を編成する訓練設定	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2) 目標、対応方針の内容	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
3) 自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

(3) プロジェクトチームによる対策等の検討

	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1) PT による検討内容	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2) PT による検討手法	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
3) 時間配分	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
4) 自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

## (4)第 7 回災害対策本部会議（各プロジェクトチームからの報告）

	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1)各 P T から報告し質疑 応答をする訓練設定	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2)時間配分	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
3)自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

## (5)全体振りかえりと今後の対策の検討（各プロジェクトチームでの検討・発表）

	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1)ふりかえり内容	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2)ふりかえり手法	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
3)時間配分	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
4)自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

## 2. ワークショップ全体 [ワークショップ全体について回答をお願いします。]

## (1)ワークショップ全体の時間配分は適切でしたか

	適切	やや適切	やや不適切	不適切
1)評価	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2)自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

## (2)ワークショップ全体を通して改善すべき点があれば教えてください（自由記述）

改善すべき点				
--------	--	--	--	--

## (3)ワークショップ全体を総合的に評価してください

	良い	やや良い	やや悪い	悪い
1)評価	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2)自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

■ 本日のワークショップに参加した自身についてお答えください。

1. あなたは自らの役割について気づくことができましたか

	よく できた	やや できた	あまり できなかった	全く できなかった
1)評価	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2)自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

2. あなたは災害時の部署間連携の重要性を理解できましたか

	よく できた	やや できた	あまり できなかった	全く できなかった
1)評価	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2)自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

3. あなたは平常時からの越境の重要性を理解できましたか

	よく できた	やや できた	あまり できなかった	全く できなかった
1)評価	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2)自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

4. あなたは積極的にワークショップに参加できましたか

	よく できた	やや できた	あまり できなかった	全く できなかった
1)評価	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2)自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

- 本日のワークショップであなたが参加したプロジェクトチームの他のメンバーについてお答えください。

1. メンバーは自らの役割について気づくことができていましたか

	よく できた	やや できた	あまり できなかった	全く できなかった
1) 評価	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2) 自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

2. メンバーは災害時の部署間連携の重要性を理解できていましたか

	よく できた	やや できた	あまり できなかった	全く できなかった
1) 評価	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2) 自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

3. メンバーは平常時からの越境の重要性を理解できていましたか

	よく できた	やや できた	あまり できなかった	全く できなかった
1) 評価	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2) 自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

4. メンバーは積極的にワークショップに参加できていましたか

	よく できた	やや できた	あまり できなかった	全く できなかった
1) 評価	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2) 自由記述 (気付いた点、回答理由 等)				

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。





DRI調査研究レポート 2023-01  
DRI Technical Report Series **[Vol.54]**

巨大災害の縮災実現に向けた体制の創出手法  
—中核的研究プロジェクト(2018-2022年度)最終報告書—

発行

2023年

阪神・淡路大震災記念 **人と防災未来センター**

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通り1-5-2  
tel(078)262-5060 fax(078)262-5082  
<https://www.dri.ne.jp>

印刷

**商工印刷株式会社**

〒651-0094 神戸市中央区琴ノ緒町4丁目5-7  
tel(078)221-1113(代表)

## 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial  
Disaster Reduction and Human Renovation Institution (DRI)

<https://www.dri.ne.jp/>



ホームページ  
DRI Website



調査研究レポート  
DRI Technical Report Series